

二十三日景
（校學女等高立郡）



明治四十二年四月創立、校地千九百九十一坪内建物
は二百八十七坪、運動場五百九十一坪、池沼十坪、其他八十九坪、二合五

勺あり（第一篇第六章参照）

周州國分寺神影并記

大抵物傳于世、物之與人相得也、而或有物以人而彰者、又有人因物而知者、不獨詞藻書畫凡百器概、至于輿地山川、亦復爾爾、周州國分精舍境內、有一小井、名曰神影、實以人彰者也、謹按、延喜元年、菅公播遷海西、三月舟遠於鞆沼浦、風波險惡、留滯者連月、一日詣精舍、謁無我和尚、受三聚戒焉、嗚呼公自文章博士、累進右相、為帝良弼、左右斯民、而一旦橫罹讒害、鼎足忽折、豈不有慨于世哉、及去臨井水自寫真、留之為贖、威貌如生、後世稱之水鑑管神、相傳尊奉焉、後三年、公薨於謫所、越翌年、我邑建廟棲神、香火而奉焉、松崎祠是也、每年十月陳祭、徙神輿於往昔維舟處、奠牲幣焉、路歷寺門、以前事故、住持僧、座于門樓下、誦呪敬拜、立為常典、世未嘗闕絕云、并在第二門傍、敬慎之至、以石為蓋、不供飲炊之用也、夫忠其人則愛及屋烏、故甘棠之微、猶有勿剪勿伐之詠、況乎神之遺蹟、豈可廢哉、雖然、物換星移、陵谷變遷、是以名利靈宇、聞于古廢于今者、不為不多矣、維此精舍、聖武帝敕、行基菩薩自創建於此地、梵筵之誦、歲月既久、鐘磬之音、晨昏不絕、此乃區區小井所以存於八百餘年之久也、天嶺和尚、謁不佞謙記其事、因略陳之云、天明紀元辛丑夏五月、飯田居謙拜撰

●國分寺什器寶物

- 一大黑天木像厨子入 行基菩薩ノ作
- 一大黑天木像 智證大師ノ作
- 一聖武天皇勅筆心經 壹卷 此外數十種

三十三第景
(寺分國山瑠瑠淨宗盲眞)



圖中左方に在るは金堂なり。其東側に神影井あり。菅公左遷の時、勝間浦に若船、風波を避る連日、國分寺に詣て去るに、臨み井に映して自から眞を寫して留めらる、之を水鏡天神と云ふ、井の側に碑あり其全文前頁に載す。(第一編第六章本寺の沿革参照)

材 木 商

今

岡村商店

防府町宮市横丁

(六)

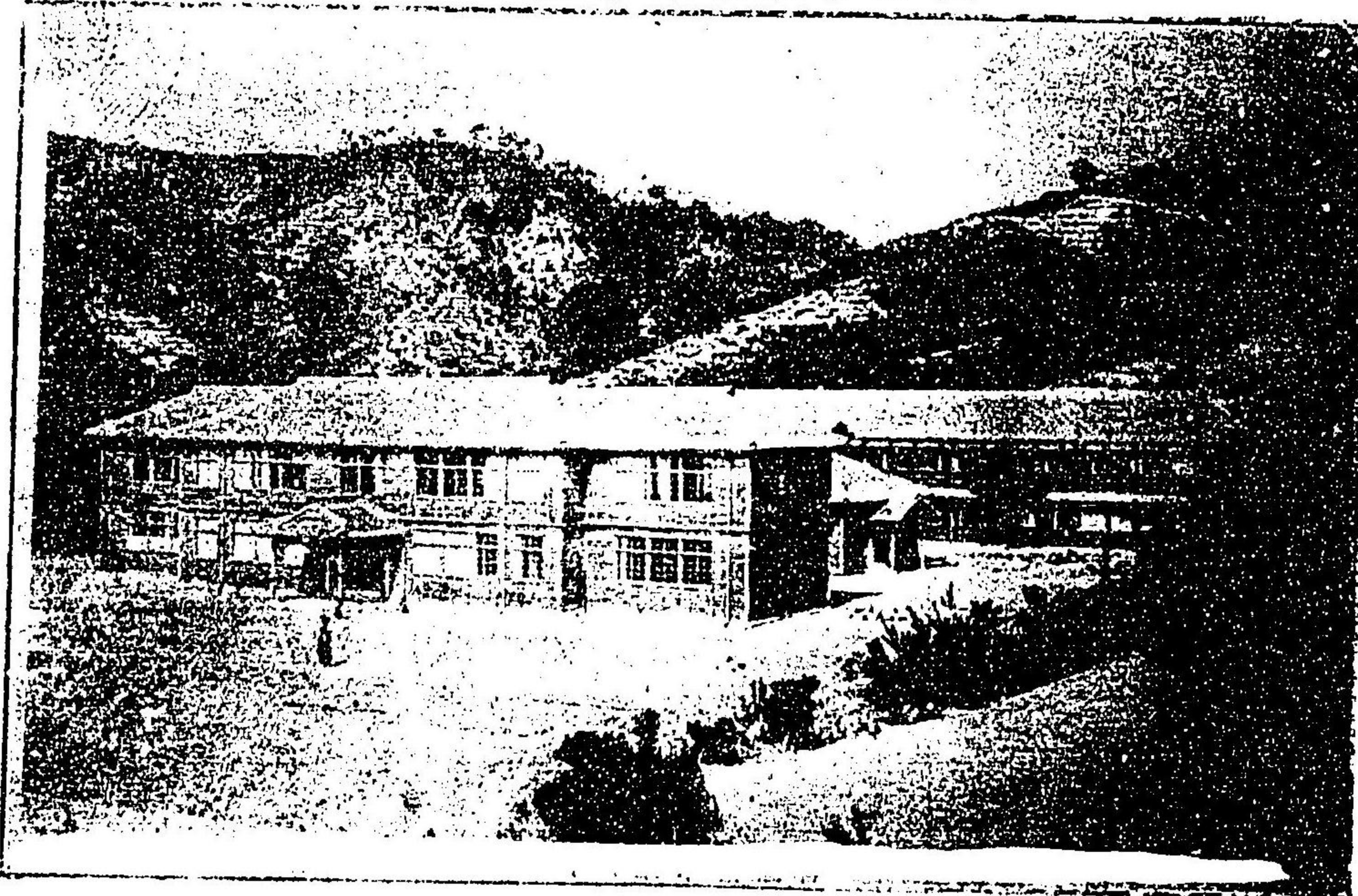
裁縫の美と価格の廉とと
主とし迅速調進仕候



米平洋服店

(防府町宮市今市)

四十三第景
(林學中宗洞曹立私)



屬建物平屋建十棟(百七坪余)以上瓦葺なり平家建
トタン葺廊下一ヶ所(十七坪)あり(第一篇第六章參照)

建築物、二階建教室一棟(百四十四坪)貳階建寄宿
舎一棟(百七十二坪余)平屋建食堂一棟(四十二坪)附

防府町宮市尻
 和洋金物雜貨
 おろし小賣
長宗商店

土木建築請負業
吉村音藏
 防府町宮市尻

石蒸及林並
 油汽据式
 發流附精
 鋸鋸修穀
 動機類理
 器製切

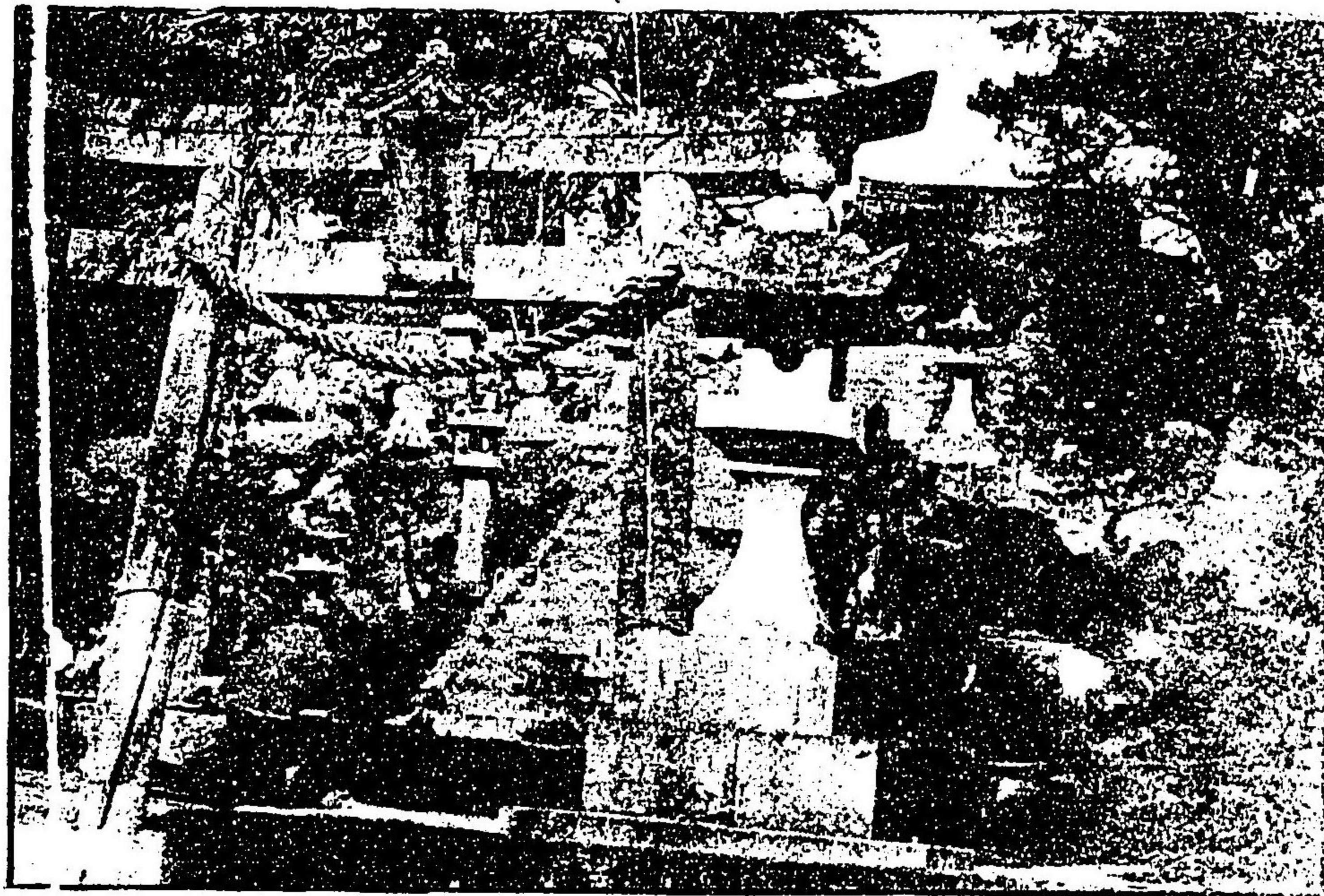
防府町松出町二六九〇番地
林兄弟鐵工所
 電話(ハヤ)

防府町多々良

中目藥製造元 中川廣三郎

兼業和洋酒類鹽煙草賣藥其他

五十三第景
 (社神波佐神村)



本社、助郷町東佐波合意社にあり、境内に別
 殿三、七歩あり、神階幣殿拜殿神庫所宿直所倉庫
 鼓樓等の外鳥居燈籠高麗狗等數多あり、又境外付

屬地所々にあり●基本金三千五百余圓●特別保存金
 百三十八圓余●氏子三百三十一戸(第一篇第六章參照)

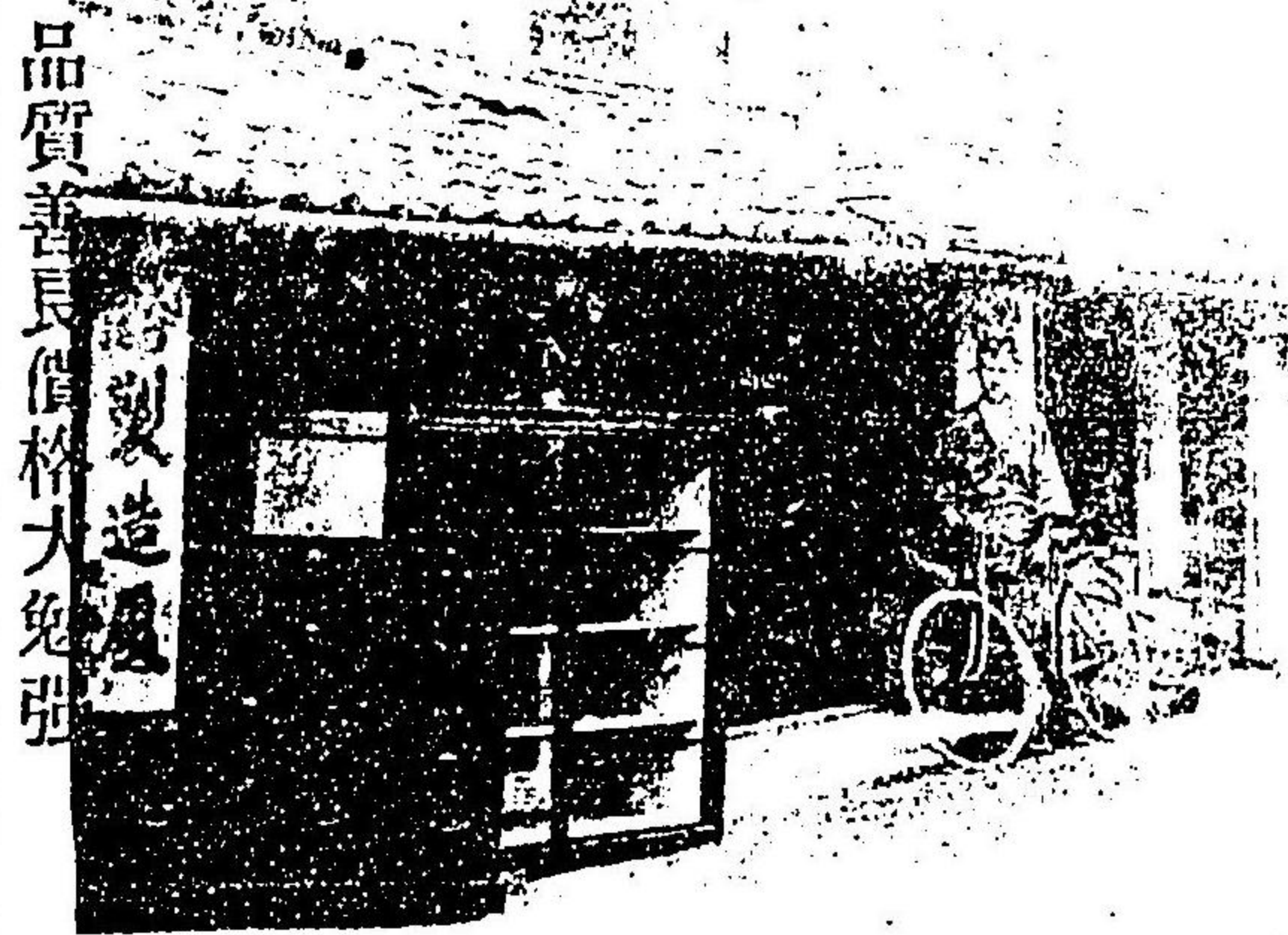
鑄物製造元

防府町字鑄物師

古鑄物師 山本源重

周防防府町宮市新町

簞笥長持
店戸棚
製造卸小賣
嫁入道具
各國漆器
西洋家具
特約并ニ委
托買賣業



品質善長價格大免強

近藤漆器店

主店(惠比壽町)近藤喜一郎



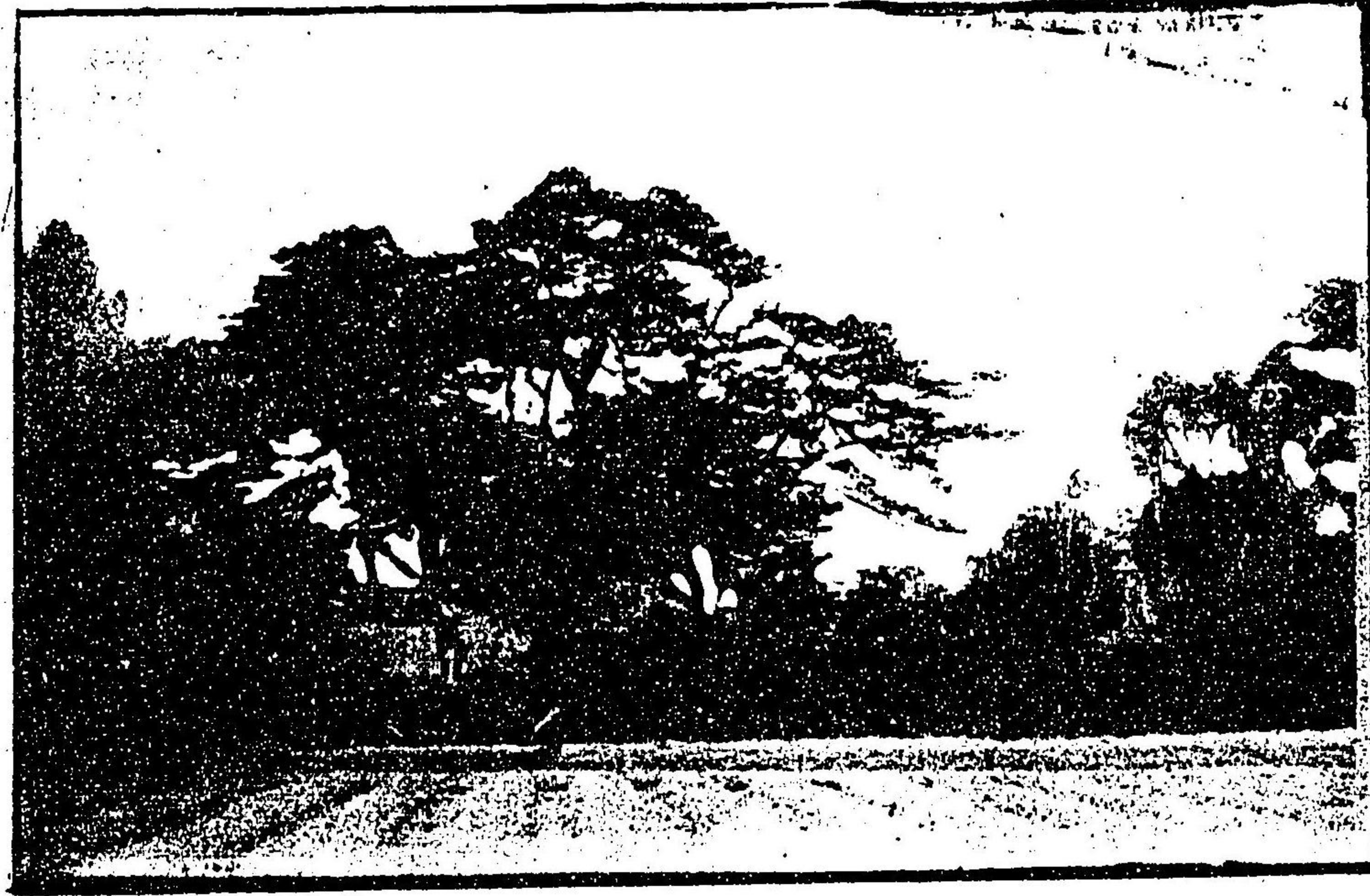
乾物荒物
鐘詰洋酒

防府町宮市中市
卸商 登坂屋元吉

電信略號(マルト)

六十三第景

(殿 濱)



勝間に都濱と云へる小字あり松崎神社の神幸地の
在る所なり神幸地(三反歩)は濱殿と稱す延喜の昔
菅小御斎庭の所にして爾後一千有餘年の今日に至

るまで毎年大祭日、神幸ありて舊典を存せり
(第一篇第六章参照)

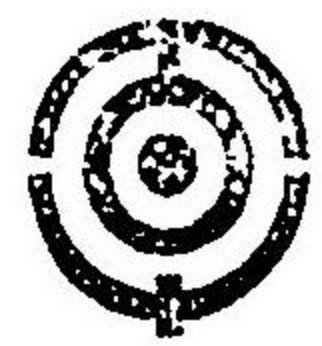
山口縣佐波郡三田尻

家引業 門田正一

井ニ建築建前

石材重量運搬

其外(ナンバ)使用一切



株式會社

百十銀行防府出張所

三田尻驛前

同 惠比須町派出所

銀行一般の業務精々
御便利に取扱申候

七十三第景
（所 役 郡 波 佐）



本役所は、三田尻中岡村北緯三十四度一分五十九秒、西經八度十分二十九秒の地にあり、佐波郡一ツ町十三ヶ村を伊治す、敷地一反二畝廿六歩なり門外に百十銀行出張所あり、又佐波郡農會及

産牛組合事務所あり

防府町三田尻下通

糀製造元 石田近之助

防府町三田尻新丁

御料理 鹿野

輪島漆器商

防府町越智出張店

長電話七〇番
大阪振替八三六三番

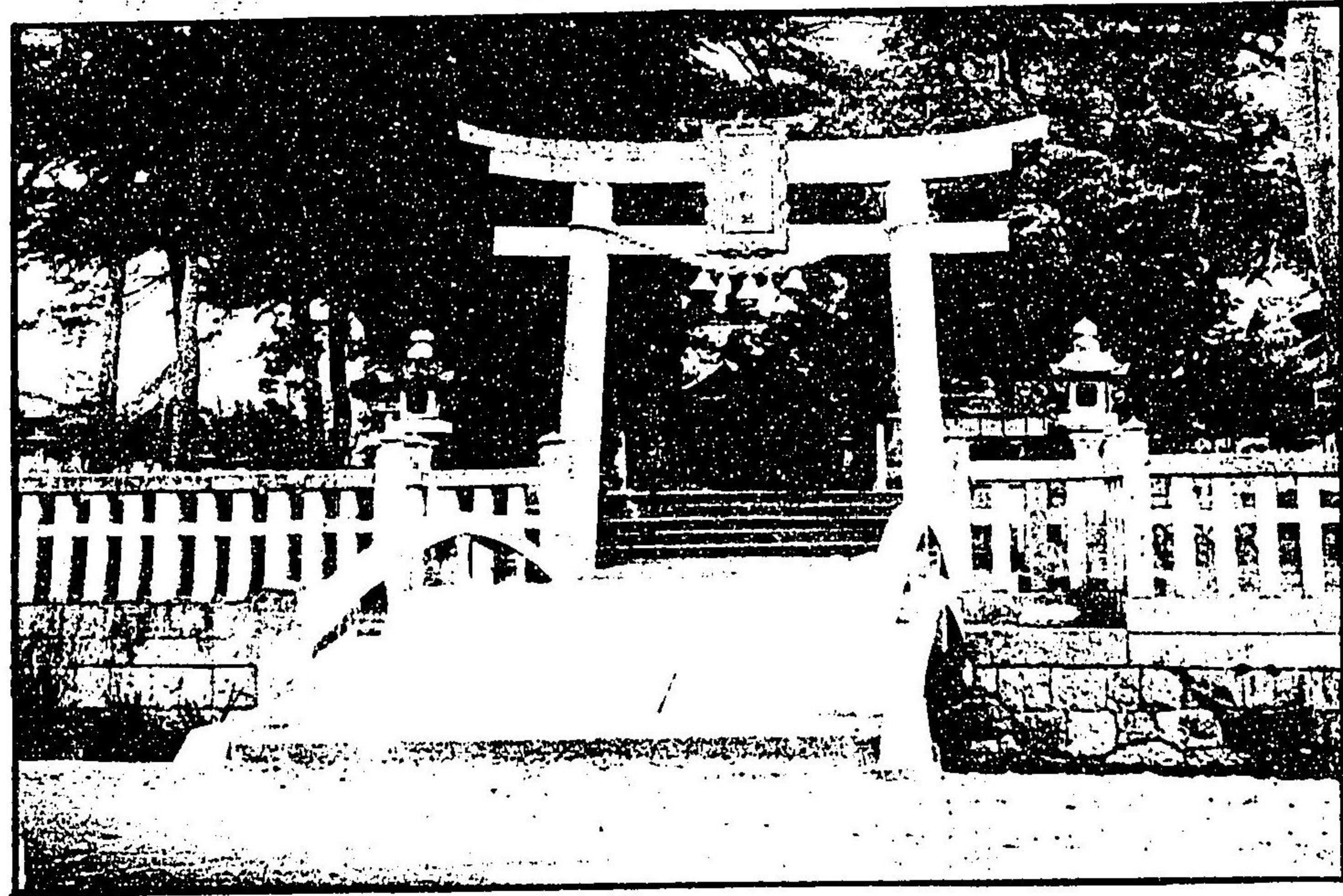
藥品并ニ諸賣藥
全國諸新聞雜誌
オルガン及蓄音器
金庫并ニ消火器
東京火災保險會社
代理店

大阪毎日新聞社代理部
發賣品取次

防府町三田尻

原巳之助
(長電七四番)

八十三第景
《社 神 松 老》



本社は、三田尻新丁に在り、毛利家別邸の所在地
氏神なるを以て、封建時代には、祭費其他同家よ
り出づ、舊社殿の如き其建立なり、今の社殿は明
治廿一年の火災後新築す、其費は氏子中の寄附な

り(第一篇第六章参照)

石請
細負
工業

防府三町
上尻
岡上
羽島
音吉

カステラ
煉羊羹
武藏野

和洋菓子調進所
并各産國陶磁器商

三田尻下路

林双月堂

糰味
製
造

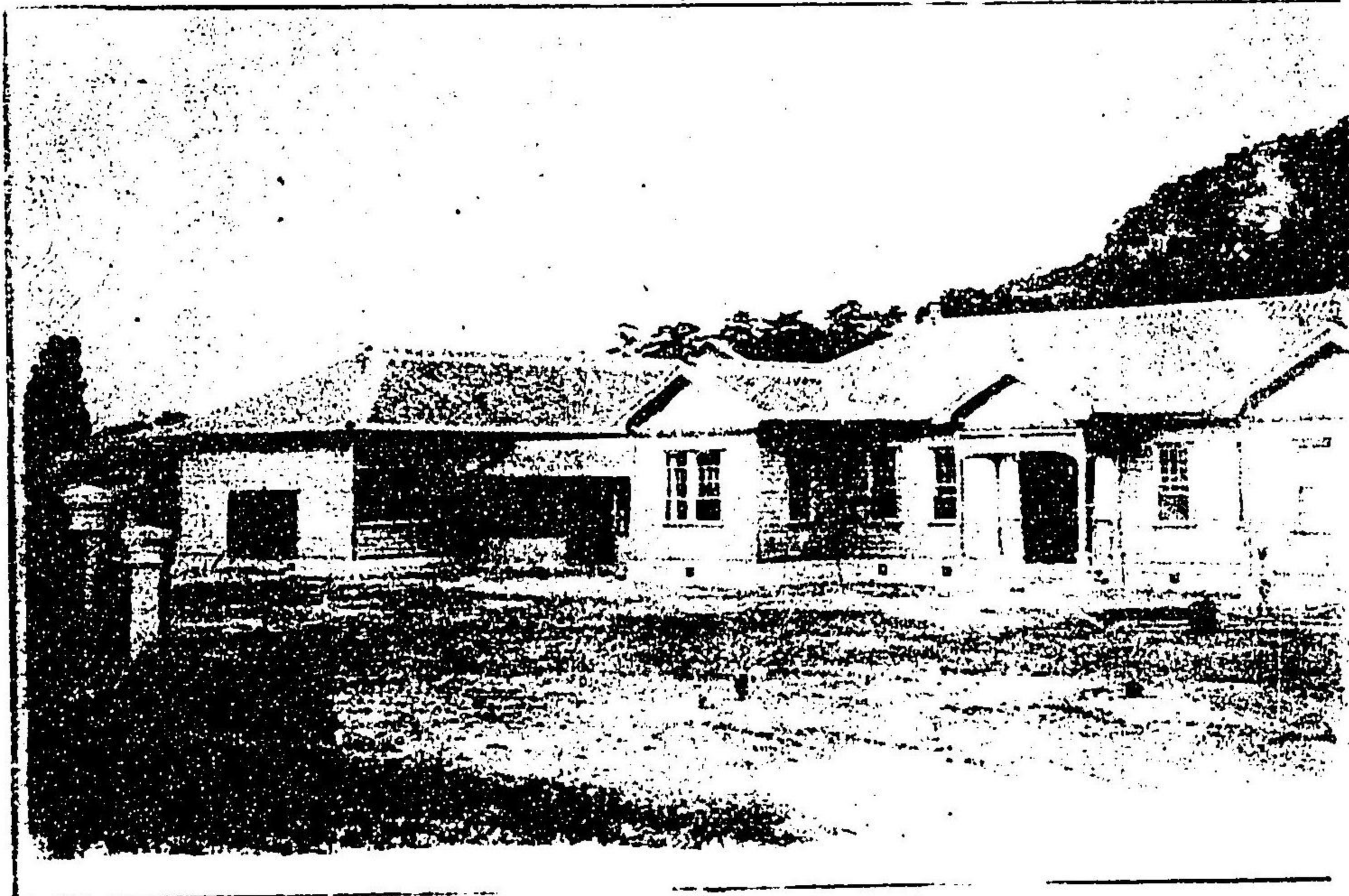
防府町三田尻下道

松永孟太郎

(商号マツヤ)

▲弊店ハ開業已ニ八十有餘年ノ歴史ヲ有ス
故ニ如何ニ信用ノ篤キカヲ
証認スルニ足ル

九十三第景
(校學中立合組)



在四月五日元校舍より現校舍へ移轉せり

校地は七千八百七十八坪あり、建物は八百九十五坪ありて内教場二百三十坪其他六百六十五坪あり
明治三十九年八月三日新築工事に着手し同四十二

防府町字三田尻

各國時計賣買石川喜雀堂

并修理專門

周防三田尻

土井商會

種菓子製造工場

三田尻小林區署側

土井分工場

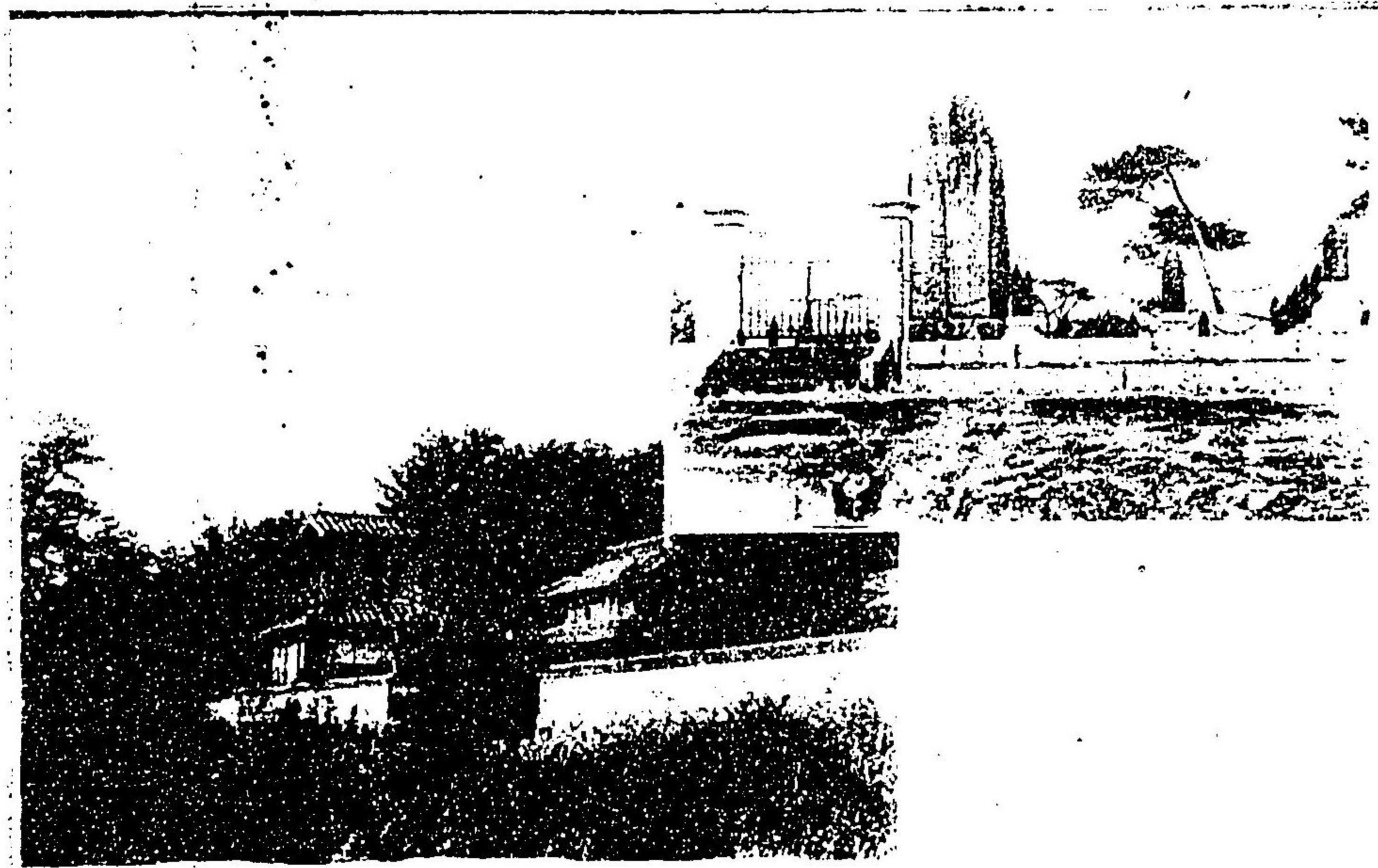
和洋菓子各種製造

周防三田尻町

國產 雞卵委託賣買

井本商店

十四第景
(寺樂大と碑魂招山桑)



桑山の東麓にあり、文久慶應以後戦死者百五十四名の遺骨を瘞ひ、其側は約五反歩の平地を開き招魂社を建設し、毎年九月十五日祭祀す、碑石あり其碑

文は大樂寺の沿革と共に第一篇第六章に載す(参照)

防府町三田尻

旅館 熊谷萬助

并ニ

(電話一三三番)

和洋御料理

三田尻登記所前

松川屋事

御料理 辨當仕出 吉本店

并ニ鞠生焼陶器製造所

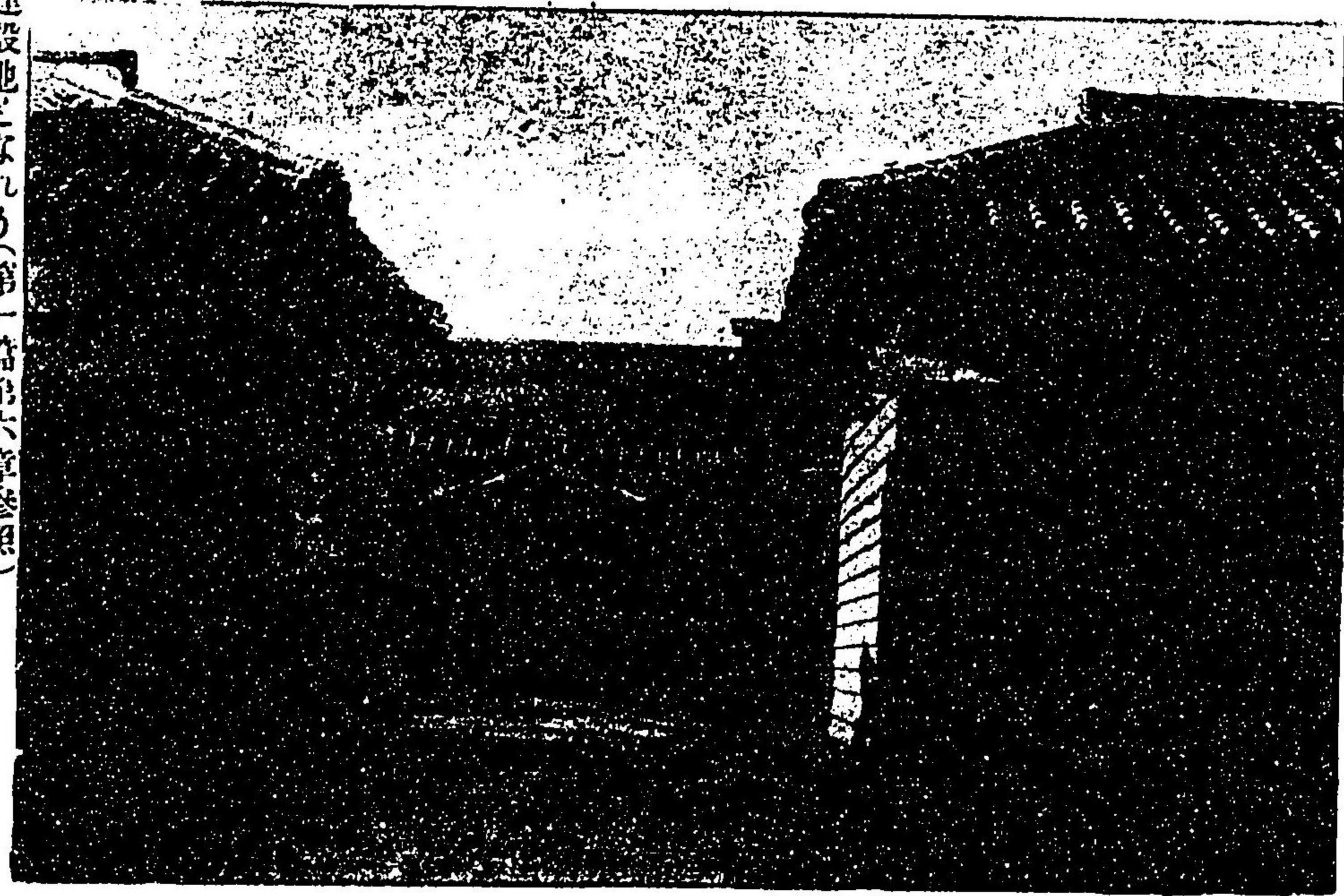
防府町三田尻岡村(登記所側)

吉本末松

精米及石粉製造所

并ニ ㊦ の湯

一十四第景
（所張出尻田三所判炭區口山）



本衙の公用地は、一反八畝廿七歩なり、此地は今
の郡役所の舊址にして其移轉後は華浦病院を建て
次に監獄署となり三田尻村役場となり今は本衙の

建設地となり（第一篇第六章参照）

和菓子司

防府町三田尻

カステラー

川口大平堂

煉羊羹

大平飴

并四ツ矢サイダー

山口縣九州

一手販賣

三田尻新道

八百屋
乾物商

杉本商店

各國本場種物并葬式道具一切

生魚

防府町三田尻

仲魚

魚友

買商

(長電話七六番)

二十四第景
(寺覺明山溟南宗眞)



本寺には本尊阿彌陀如来立像及見真大師慧燈大師
等の祖像を安置す本堂十二間四面明治二十九年焼
失同卅二年再建落成入佛(一編第六章参照)

雜穀類 乾物 海產物

寶田石油株式會社
大鼓獅子印燐寸 **特約販賣店**

三田尻高洲町



柴崎清吉商店

(電話六一番)

防府町三田尻松原口

石細工請負業 吉武百合吉

並ニ履物卸小賣商

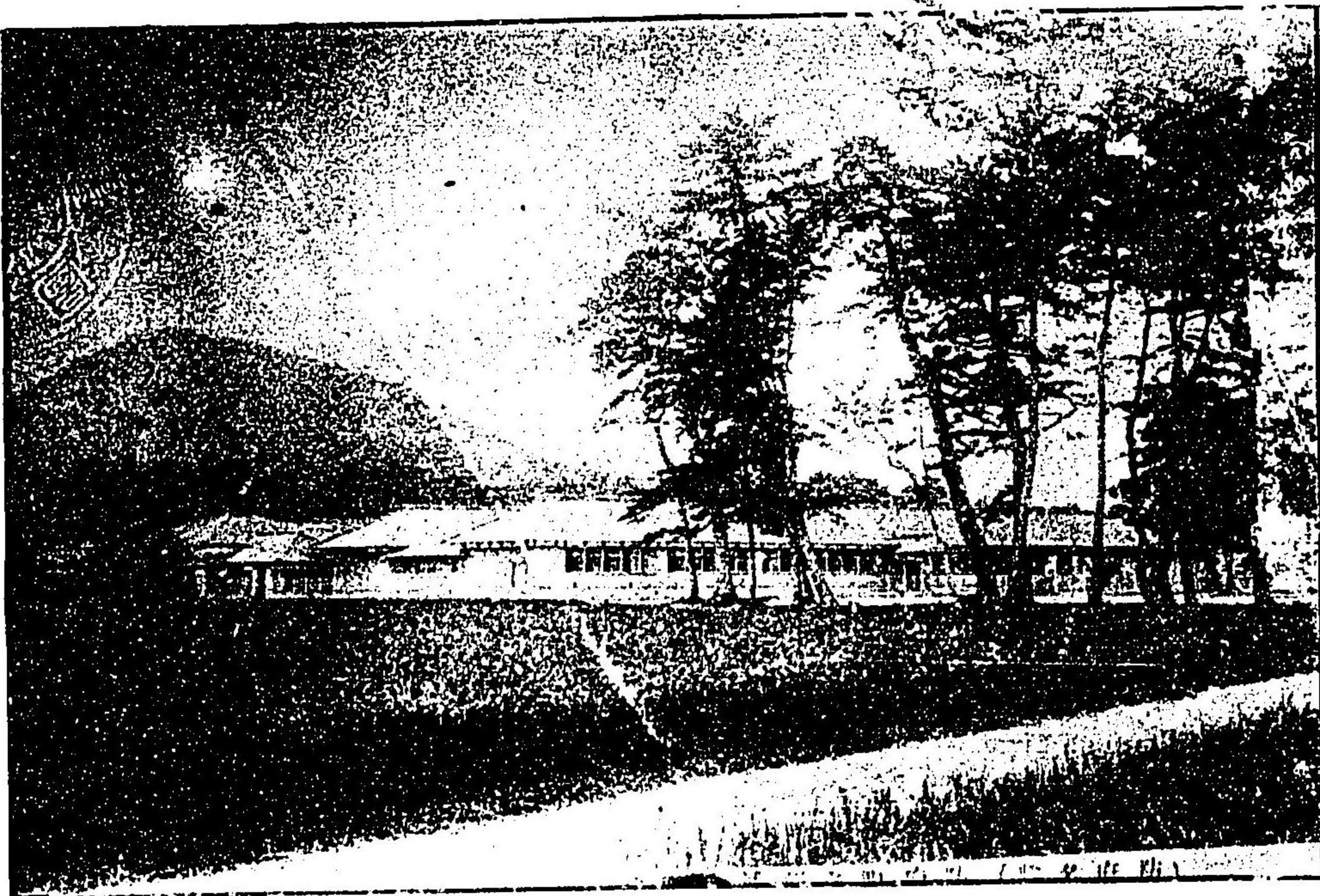
三田尻高洲町
龜田龜鶴堂

寶田石油株式會社
大鼓獅子印燐寸

特約販賣店

三十四第景

(校學小等高常尋浦華立町府防)



本校は鞠生松原閑雅高嶽の地にあり、校地総面積一町七反三畝廿七歩、柵内敷地一町一反七畝廿六歩、柵外運動場五反六畝歩、校舎千八百六坪、内特別教

室三、普通教室二十四あり、建築は明治三十九年六月廿九日土功を起し、四十二年三月十二日落成式舉行

營業種目

穀類 砂糖
菓子製造所
メリケン粉
精米所并湯屋

防府町新甲

古谷利吉

(電話一九三番)

牛乳

脂肪 豐富 品質 純良

三田尻
(原松生鞠)

愛生舎

防府名物 まりふ餅水屋松月堂

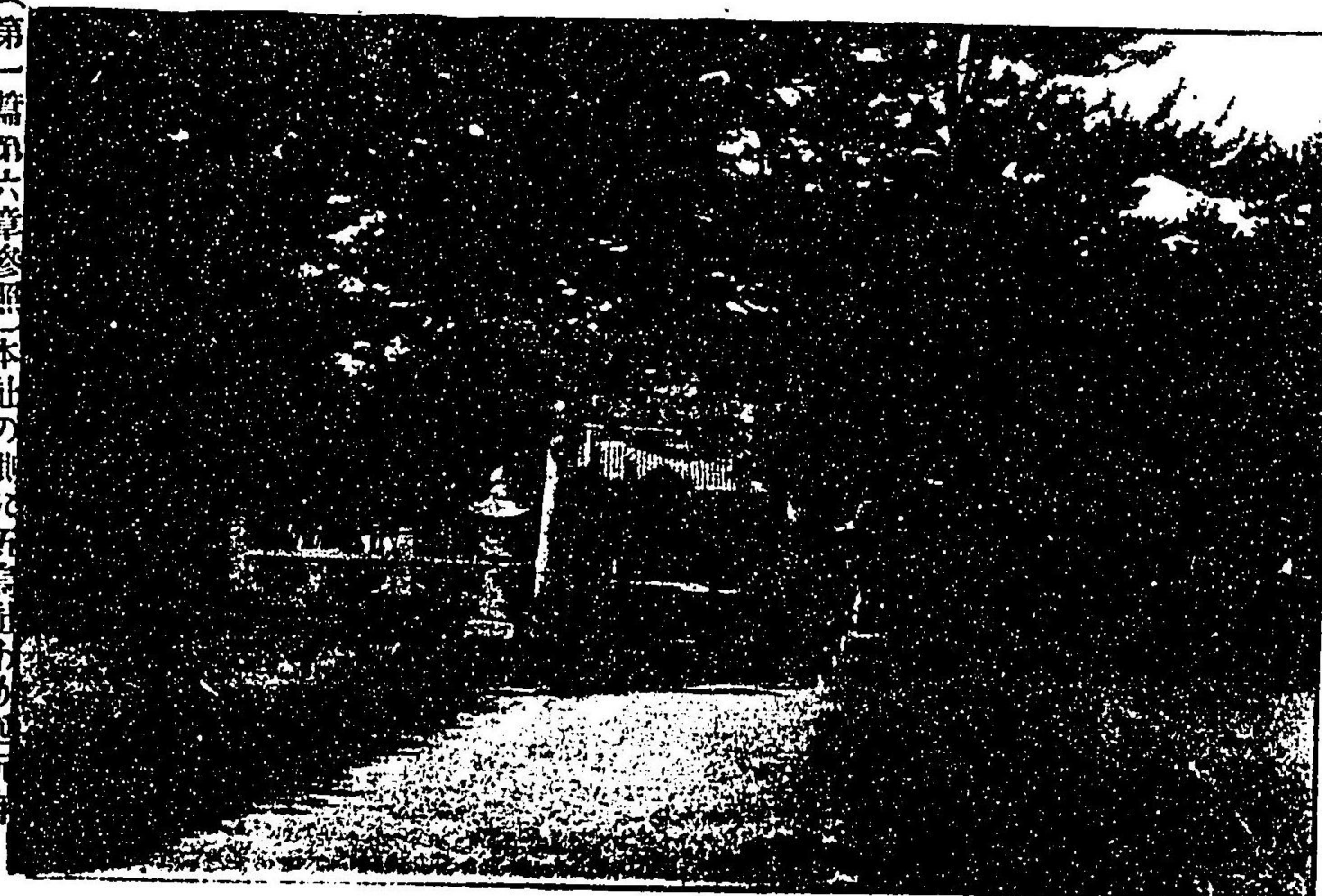
防府町三田尻

松原やあがるまりふの

餅の名は高洲の花の浦にすめる
延安

九かく世にきこゑけり

四十四第景
(社 神 島 嚴)



(第一編第六章參照) 本社の創立は五島神社の遷座の
間の創建にして明治三十三年八月千年祭を執行す
云

本社は、古來より勝地と稱する鞠生原にあり、
三田尻盤田地方の總鎮守なり、自鳳十一年鎮座よ
り明治四十四年まで年を経る千二百三十五年

和洋
御料理

三田尻本町(御茶屋前)

杉浦樓

(電話五三番)

三田尻毛利公爵邸前

御旅館 吉原

三田尻堀口

米穀
肥料

梶山商店

(長電話五番)

三田尻福聚町

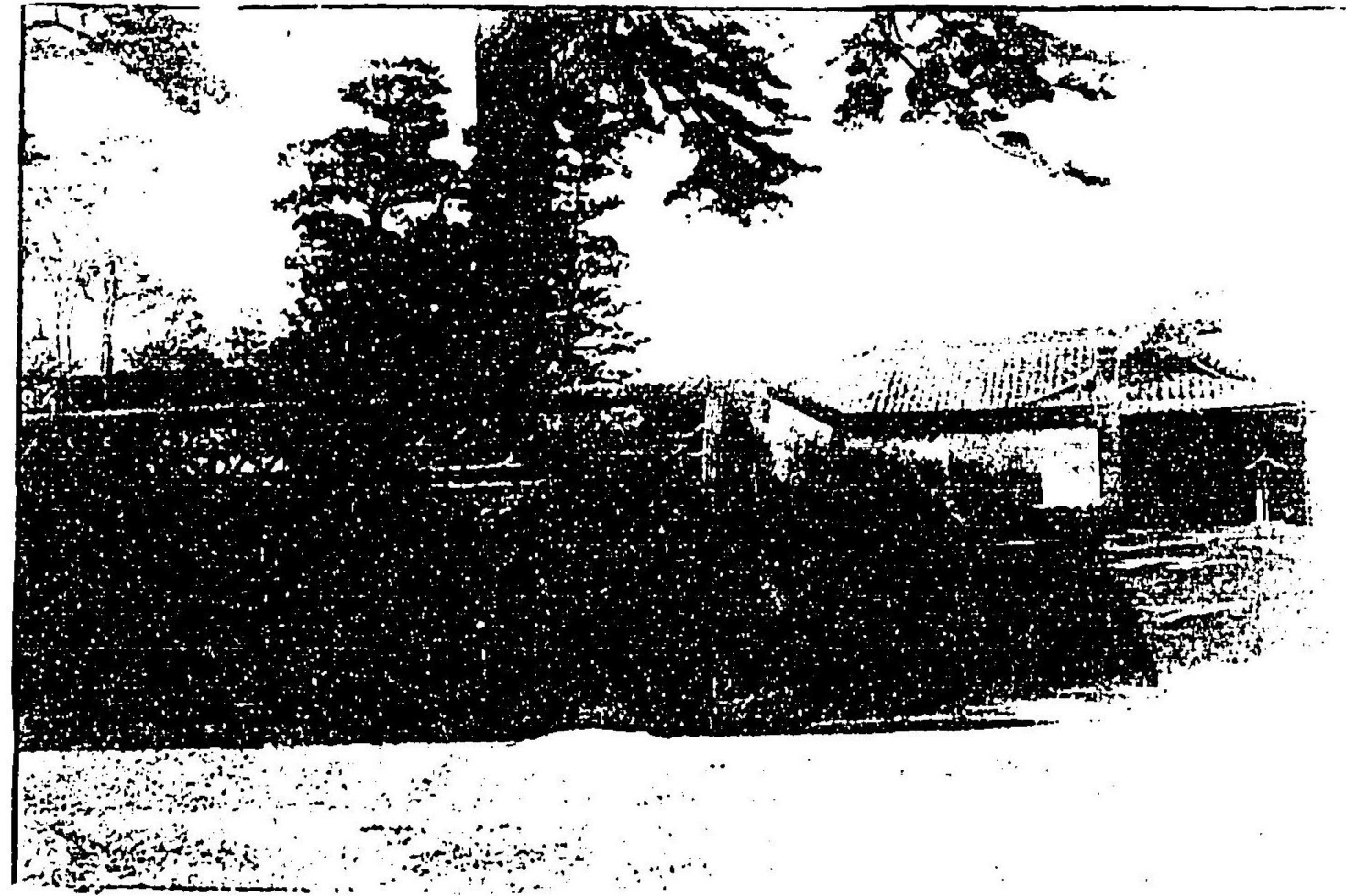
御料理 松岡

井三

(電話一二二番)

和洋酒及
罐詰類販賣

五十四第景
 (邸別公利毛尻田三)



本邸内の大観樓、招賢閣は、英雲公の時、名せられしものにして、維新前西下の三條公等七卿の久しく客居せられし所なり

<p>本邸 大観樓 招賢閣 三條公等七卿の久しく客居せられし所なり</p>	<p>招賢閣 大観樓 三條公等七卿の久しく客居せられし所なり</p>	<p>三條公等七卿の久しく客居せられし所なり</p>	<p>三條公等七卿の久しく客居せられし所なり</p>
--	--	----------------------------	----------------------------

人氣木の花
鶴正宗
松の色
醸造元
原田貞一
防府町三田尻
(電話六二番)

春陽驕
山陽鶴
この花正宗
澤の松
發賣元
松澤幸一
防府町三田尻
酒店
(電話九二番)

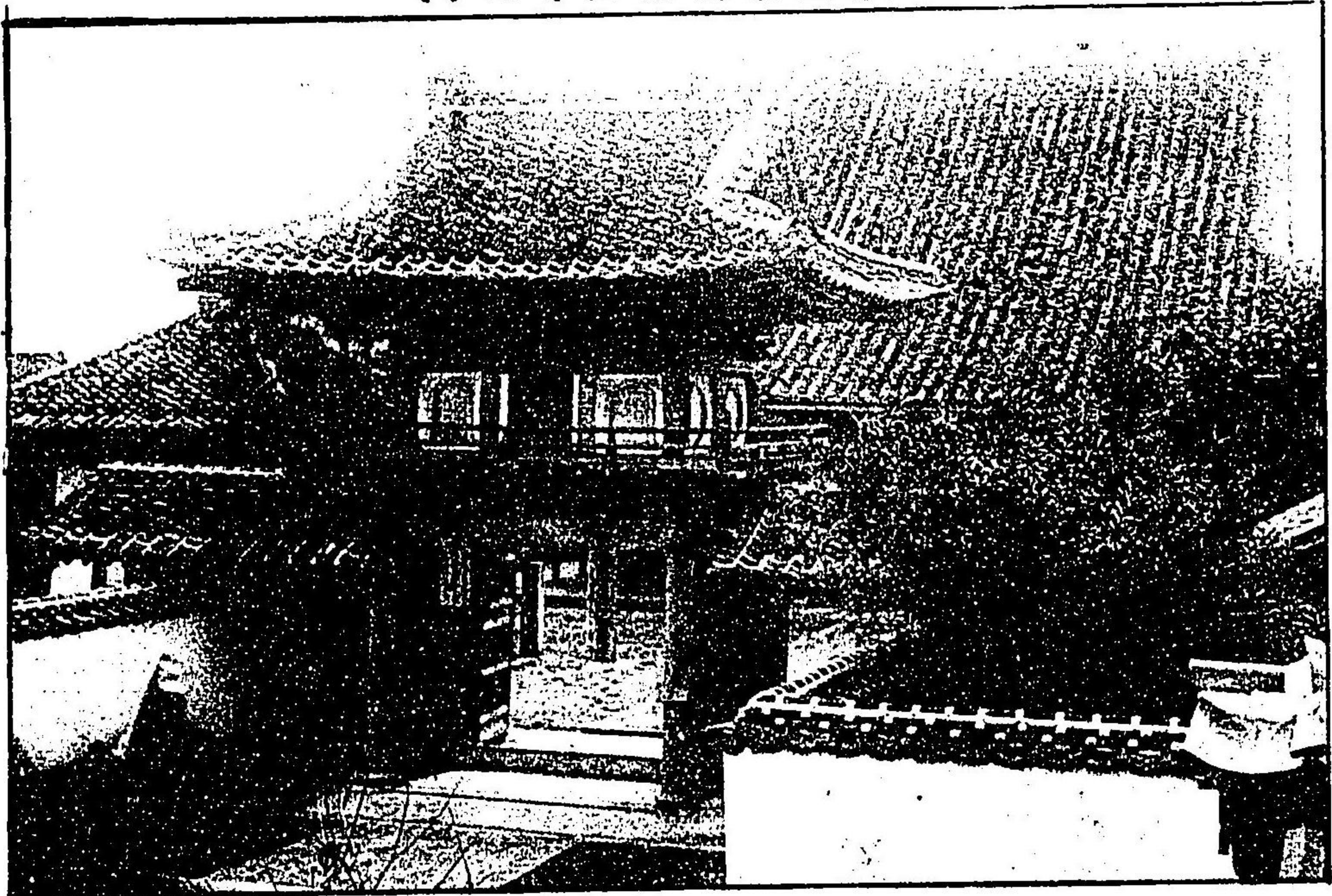
商標
金虎精撰醬油
惠美須屋醸造元
防府町三田尻下町

美術絹染
並ニ京染取次所
高橋染工部
防府町三田尻局ノ内

公債
株券
債券
現物賣買
吉武榮之助
防府町三田尻下町

電報略號(ヨ)又ハ(ヨシ)

六十四第景
(寺光専山浦龍宗土淨)



本寺は、もと専稱寺と稱へ萩廣雲寺の末寺なり、
寛永三年心譽權應の開基なり、本尊阿彌陀如来、
英雲公の念持佛は桑山法積寺にありしが明治五

年廢寺となりしに依り本寺へ移せり、同年雲光院
と合併す依て今の名に改む

御宴會會席御料理

三田尻堀口

熊佐樓本店

(電話四十一番)

三田尻驛南二丁

熊佐樓支店

(電話五十九番)

烟草

周防三田尻港

陶器

①

磯部鹿三

三

履物

并=白米周旋業

七十四第景
〔其一〕《港尻田三》



堀口は、三田尻海軍船倉の入口にして、此所
年々土砂の流出により埋没するも、當時は浚渫せ
られしより、船艦の出入に不便なかりしなるべし

現今尚ほ日夜船舶輻輳して物貨の聚散繁盛なり

嶺新名菓製發賣元
物朝日名菓製發賣元
新製新銀花
朝日名菓製發賣元

防府町三田尻堀口

佐々木朝日堂本店



板

材木

重村

良吉

長電一四〇番

三田尻町

木炭

堀口

并運送業

同

支

店

電話一六四番

八十四第景
〔其二〕《港尻田三》



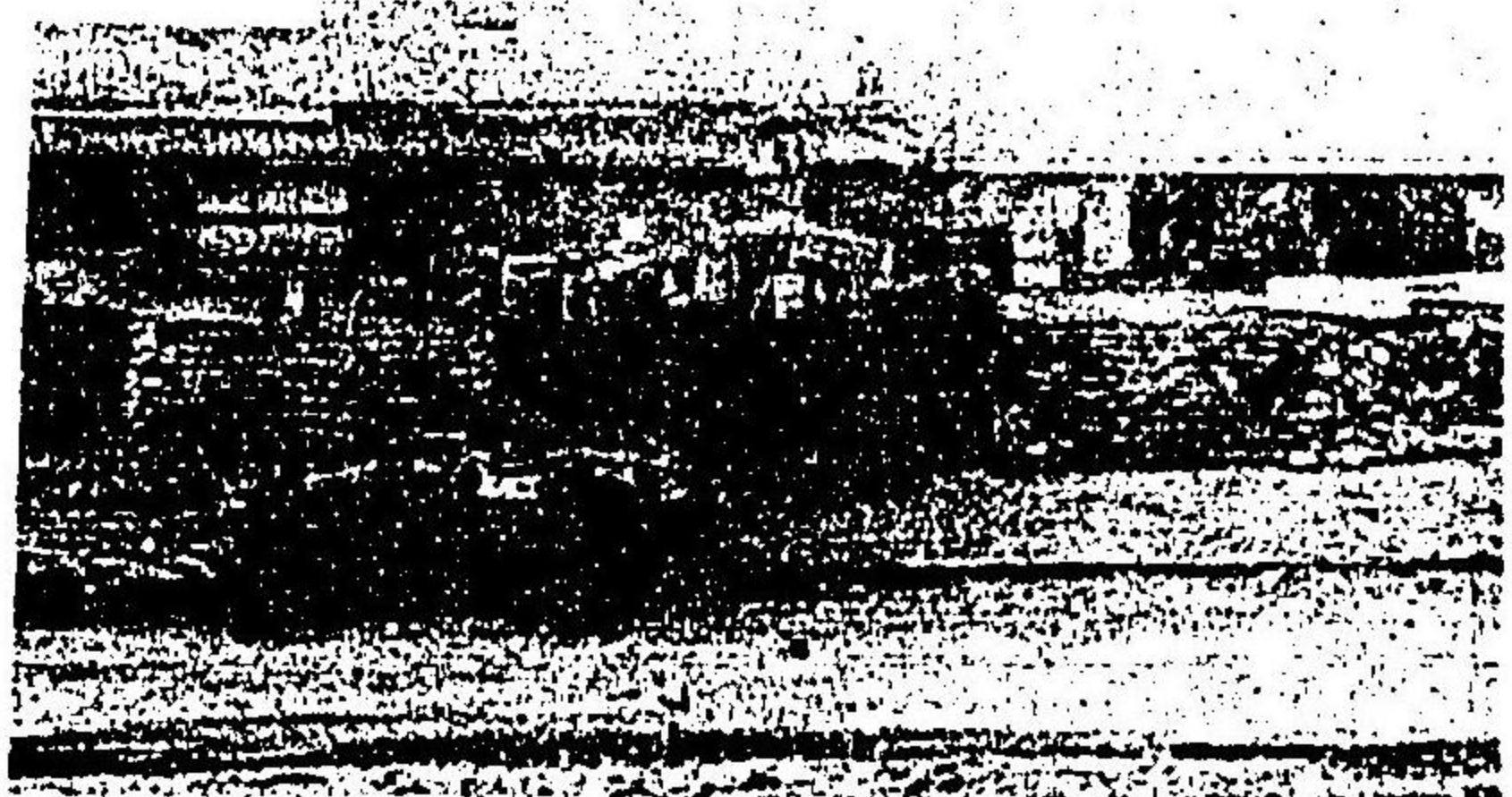
本圖の社は、住吉神社なり、寛永年間乙未、三田尻
船倉へ攝津國住吉神社より勸請、正徳五年乙未、三田尻
創建、祭神は表筒男神、底筒男神、中筒男神の三柱なり

海陸運送業

三田尻港

海陸運送合資會社

(長電二八番)



材木炭商 木村商會

三田尻港

兼運送業

(長電話七五番)

瀛船問屋 同築堤 支店

同築堤

九十四第景
〔三其〕（港 尻 田 三）



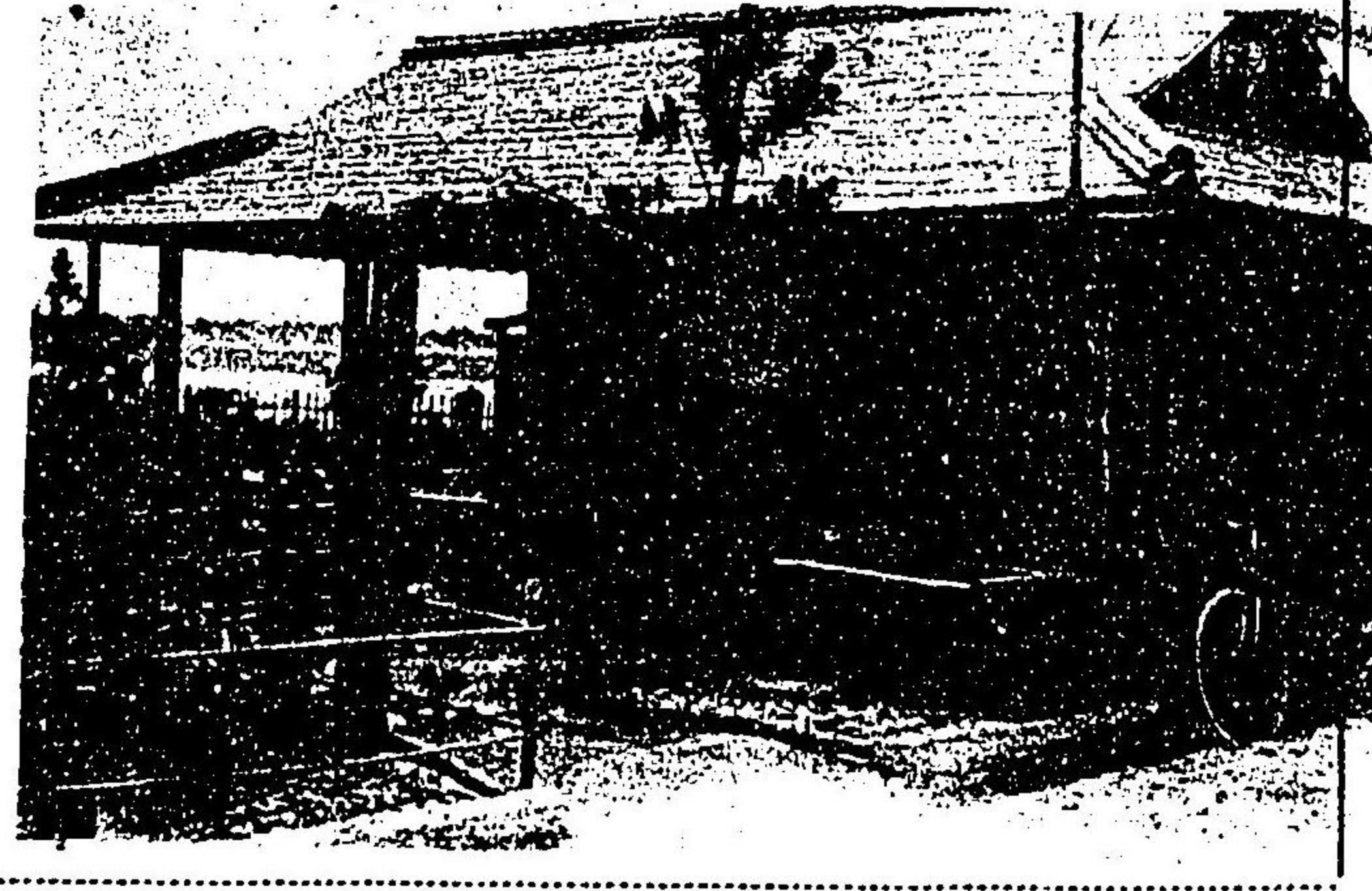
此圖は三田尻港庚午新町南端の景なり此港は汽船の寄港以來乗船又は上陸客の爲めに此所に削石を長く並へて乾潮時の用に供し居りしが猶ほ不便な

るより築堤を設けしなり

關西同盟船荷客取扱所
旅館 佐藤 要助

三田尻港船問屋

生す魚 御料 松友亭
三田尻築堤



御旅館

大阪商船會社
尼崎汽船 荷客取扱所

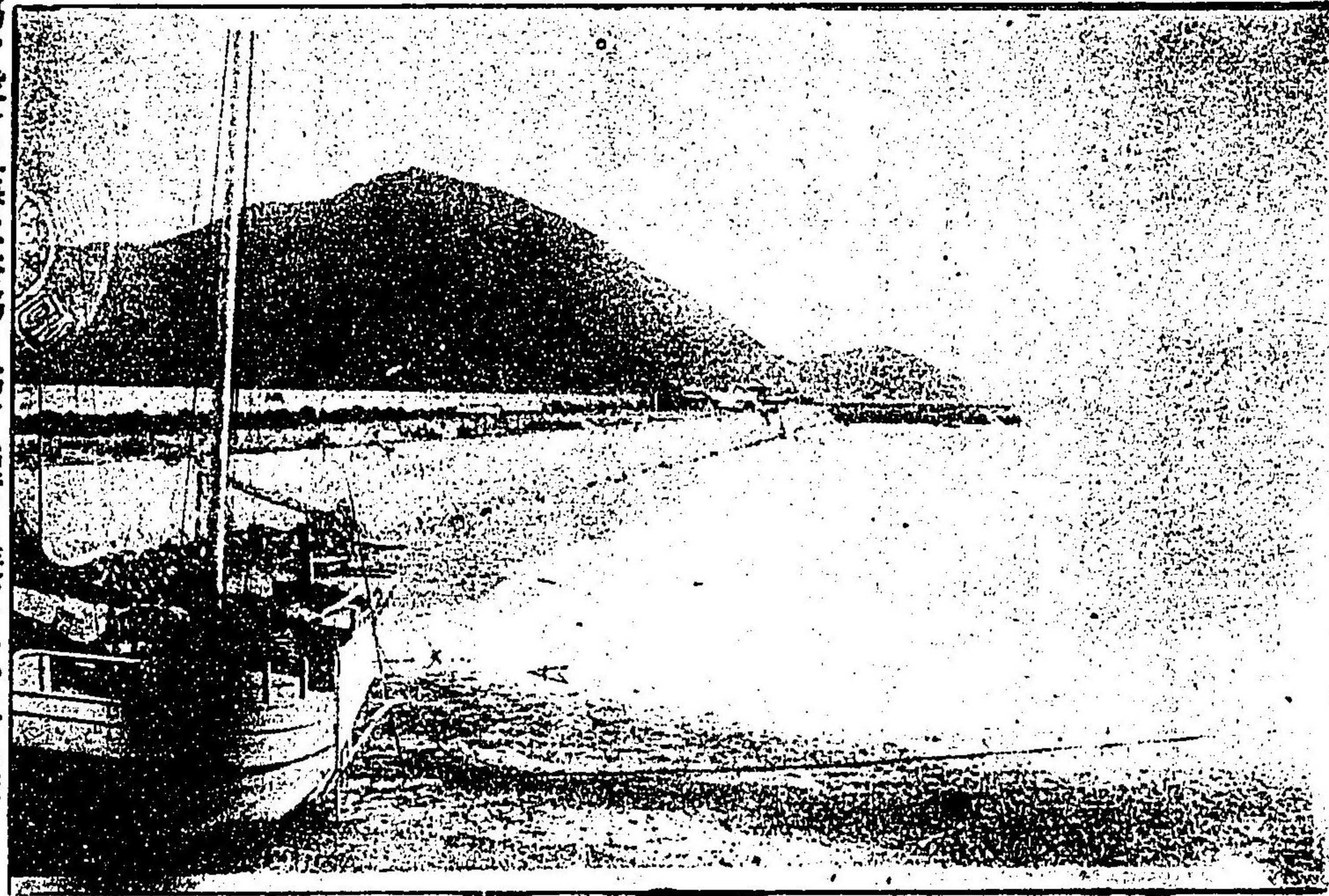
三田尻築堤

山 德

● 弊館は途中宿引等は差出不申候
● 御旅客に對し萬事丁寧親切に御取扱可申候

第十五景
(三田尻港築堤)

場を設け且海水浴場と爲す此所に遊ばんか真に樂境に入るの思ひあり



三田尻港頭より斗出する長堤を築堤と稱す、長さ三百五十余間あり(二條六章参照)●築堤幾個屋宇の間に觀潮樓あり明治三十四年夏日の新築なり水練

●村社春日神社

本社は牟禮村坂本にあり、文治二年、周防國司重源上人
大和國奈良春日神社の御分靈を奉戴し來りて鎮祭す、境
内幽靜にして森殿自から存す、又雅趣の神苑あり、社地大
平山麓、地勢高き所よあるを以て、西南一面幾多防府の
勝景は、眸裡に入り來るのみならず、海を隔て九州の山
岳起伏の狀を觀る眺望絶佳なり●氏子八百三十戸

祭神 春日四柱大神 ●例祭十月九日 (夜度十月八日
の古式) (夜神事連歌踊
あり)

境内坪數 二千九百四十坪(反別九反八畝) 神殿七

坪五合余 ●拜殿十五坪七合五勺 ●幣殿九坪七

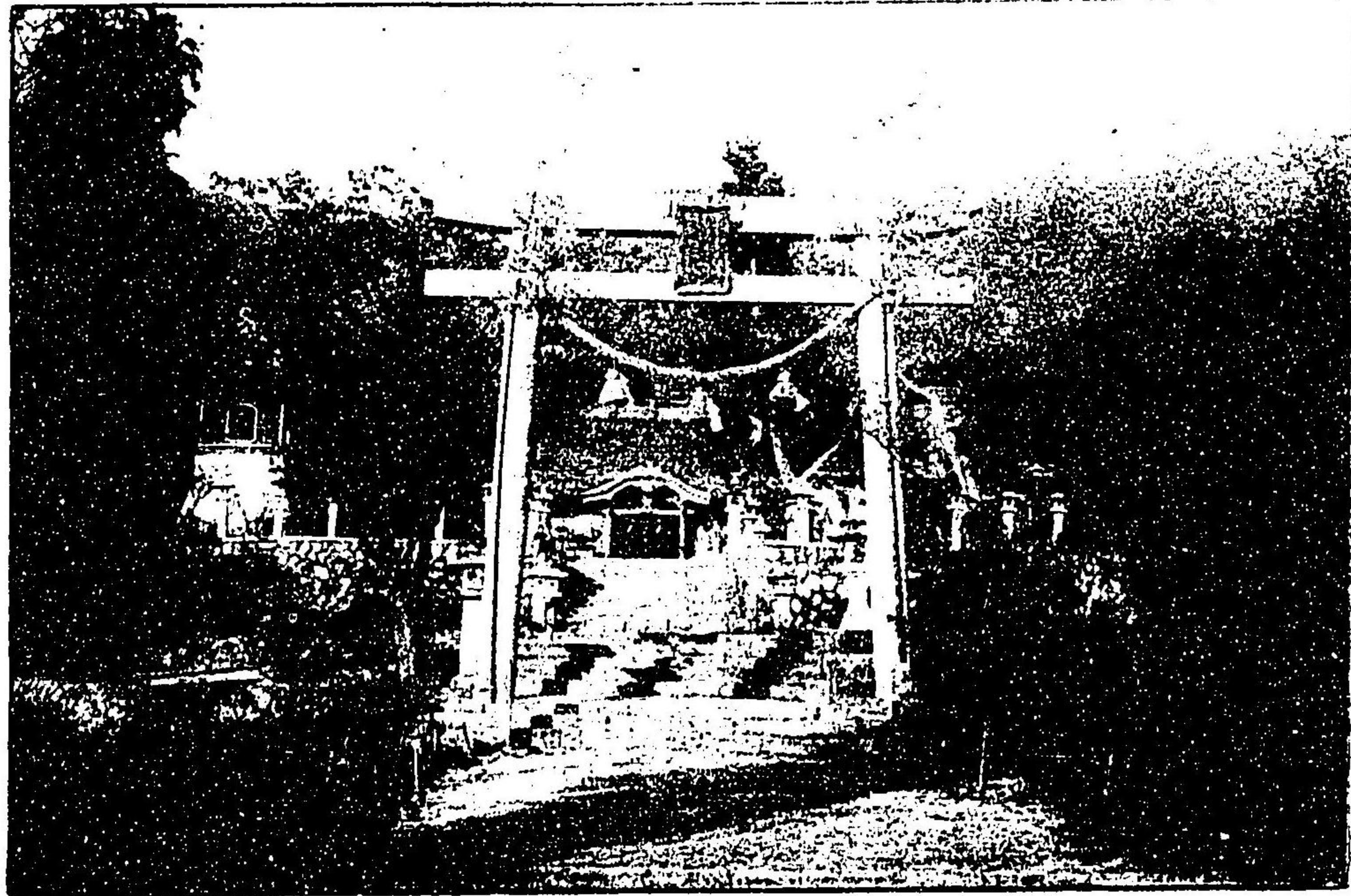
合五勺 ●神事所六坪 ●神庫六坪 ●參籠所十

五坪 社務所二十五坪

社有財産 神饌田反別四反余 保存金現在參千五百圓

因に牟禮村開設の始より大元神社と稱する鎮祭の神社あ
り大平山の麓に在りしが重源上人奈良春日神社の御分靈
を合祀せし者なり云ふ

一十五第景
(社神日春社村)



本社
の沿
革等
は前
頁に
あり

◎ 眞言宗

阿彌陀寺

本寺は、牟禮村坂本に在り有名の古刹なり、一たび其門
 闕を越ゆれば、老樹森々深邃幽靜、頗に俗念を離れ、仙
 境に到るの思を起す、創建は、俊乘坊重源上人にして、今
 を距ること七十有余年の昔、文治二年より起工し、建久
 八年十一月廿二日落成と共に十三重の鉄塔を鑄造し、本
 寺建立の扉末及東大寺再興の年月等を鏤銘し、後世に遺
 せり、往昔は、十坊一院一庵あり、其総號を阿彌陀寺と稱
 へ、別に阿彌陀寺と云ふ本坊ありしにあらざ、後に諸坊悉
 く廢絶して、本坊のみ殘留す、之を阿彌陀寺と稱すること
 となれり、而して開山上人より以來文明五年中まで、勅命
 を以て名刹の高僧、住職を拜任せり、皆周防國司職を兼ね
 其後拜任の年月詳かならざるも、足利氏末葉の頃まで、總
 へて朝廷より任命ありしこと、東大寺の記録に載せたり、
 當山獨住となりしは、慶長以後なりと云ふ、堂塔は開創後
 三百六十年を経て文明六年、火災に罹り、全部焼失せり同十
 七年周防守護大内政弘、開山堂を再建し次第に堂塔を復
 興す、延寶年中、宥惠法師浴室を再興し眞惠松惠相承けて
 中興に勉め、以て以前の莊嚴に復せり ●本尊阿彌陀如來

阿彌陀寺所藏の寶物

國寶 重源上人座像 自作にして其等身の像なり
 同 鉄製多寶塔 重源上人鑄造本寺開創願末其他を鏤銘
 せるもの

同 鉄印國威 傳説に東大寺再興の時後白河院の勅によ
 り南都の鎮守五社の寶前々於て三個の國威を鑄て一は

東大寺一は尼崎一は周防國佐波郡三谷の深木屋所橋奈
 良定の屏敷に置り院宣を添へられたる大佛殿の材木の
 國威なり奈良定の末葉相添へて之を所持せしを寛文五
 年領主毛利就信求め得て當寺へ寄附せらる他の二個は
 今傳はらずと云ふ
 此他寺寶は繪旨古文書其他數種あり

二十五第景
(寺陀彌阿宗言眞)



本寺の沿革は前頁にあり

牟禮村前町

石灰製造所 上田商店

帝國生命保險株式會社
國民生命保險株式會社 代理店

牟禮村前町

貞廣商店

酢醬油釀造業

牟禮村前町

雜貨店 淺海商店

并二御菓子製造所

岸津濱

石川本店

鹽元賣捌所

三十五第景
〔社神泊江社村〕



本社は卒禮村前町に在り、寶曆六年八月十七日領主毛利内匠江泊開墾の際、沖の原に鎮祭す、天明二年現今の地に移轉せり●祭神大彦日命與津彦命與津姬

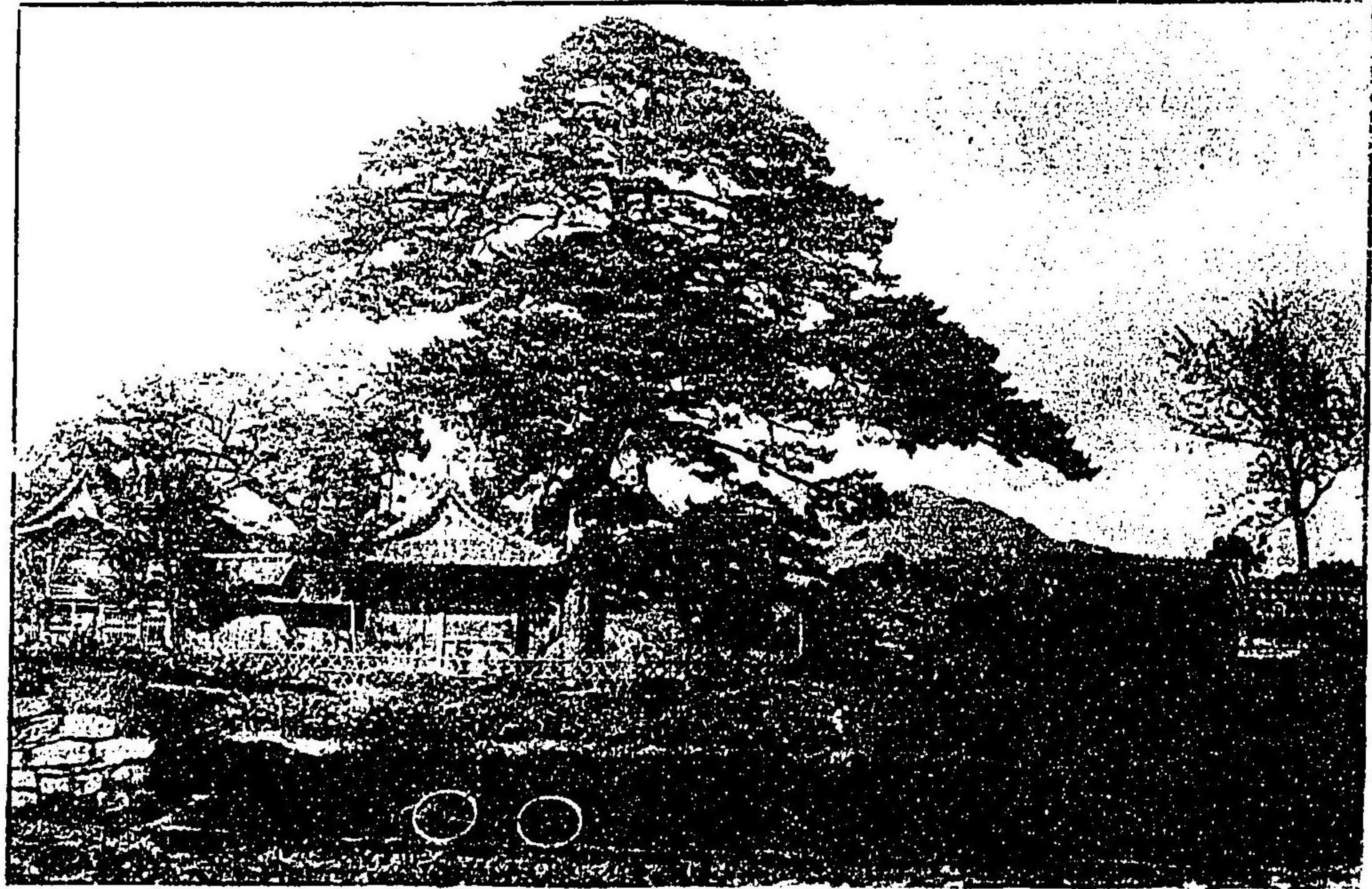
●命豐玉彦命●祭日十月九日境内四百四坪建物五十坪
●社有財産一町二反六畝五步●氏子壹百五十戸

●岸 津 神 社

本社は、牟禮村岸津にあり、天之御中主命を奉祀す、推古天皇の御宇、大内家の祖先琳聖太子が舊稱多々良濱即ち岸津の地へ着岸の際、土地を卜し現境内へ勧請し、北辰妙見宮として社殿を創建せしより以來大内家の直轄に代々崇敬せられ幣帛料及び修繕料として年々定額三十貫文宛奉納せられしが、天文年間義隆公遭害同家斷絶の悲運に遭遇するに至り、爲めに祭典修繕の資料乏しく御社頗る衰頹を極めしが寛永三年毛利輝元公の命にて宍戸備前領地右田と毛利山城領地三丘と轉采地の事あり、當時の領主毛利家は數十の船手役を岸津の地に置かれ、當社を守護神として崇敬し、寶曆十三年未九月領主當社の衰頹を歎し田畑八反七畝十歩此石高九石三斗三舛引當寄附せられ、維持方法を講せられし、以來今に至るまで維持の方法確立す

彼の琳聖太子着岸の事跡は今橋飯屋、幕土井、牛森、馬森等の名稱の存するあり此飯屋は琳聖太子上陸飯宮を營みし地なる故に名つけしものなり、當社勸請以來一千三百餘年を経過す本社は實に由緒著名と共に岸津の地亦眞に舊跡に屬す

四十五第景
(社 神 津 岸)



本社の沿革等は前頁にあり

登錄 君か井印 實正宗印 福娘印 清酒 燒味耐 商標

小麥粉 糯煎粉 只煎粉 蕎麥粉 精白米

佐波郡右田村勝坂

卸商 渡邊良一

電話(〇七)又(一七)

烟草 鹽小賣 板本太三郎

右田村勝坂

兼諸雜貨

米穀 白米製造 今岡村鶴松

佐波郡右田村勝坂

販賣業

小麥粉 粉類 製造 販賣 德永松之助

佐波郡右田村勝坂

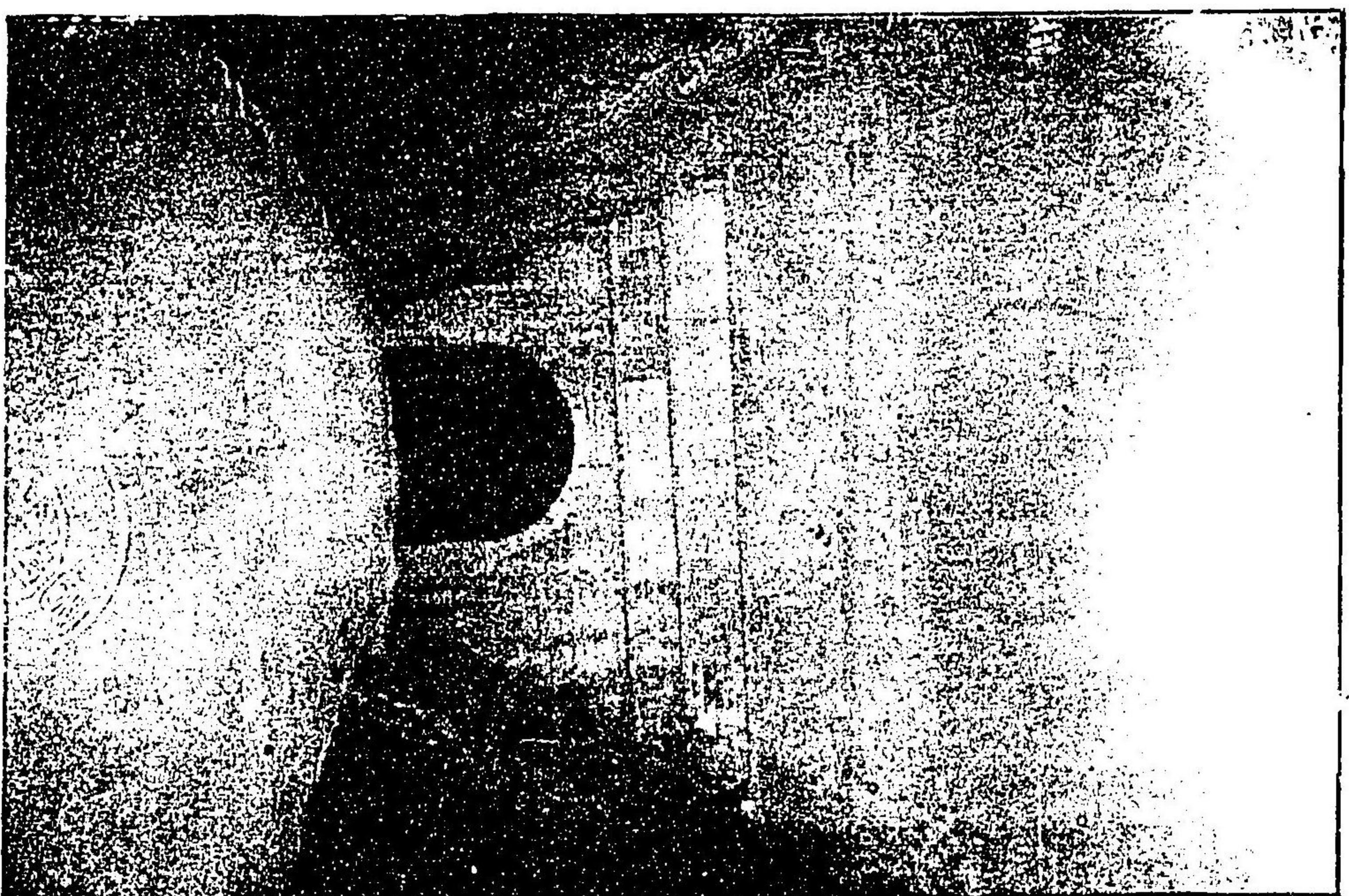
諸粉類 防長精米

商号常盤屋 電話(〇ト)



醬油 醸造 發賣 伊藤義顯

右田村勝坂



111

景 第 五 十 五 《佐波山洞道の南口》
吉敷佐波兩郡界を爲す鑄山峠は、道路甚だ峻峻ならざるも交通の衝に當るを以て隧道を開鑿して車馬の往來に便す、長さ二百八十一間あり、明治十八年七月落成す



營業種目

小麥粉 煎麥粉 只煎粉 蕎麥粉 地生粉 米國粉 上海粉 香港粉

製造販賣所

周防國佐波郡右田勝坂

奈良屋商會

主德永周吉

(勝坂聖蹟碑文)

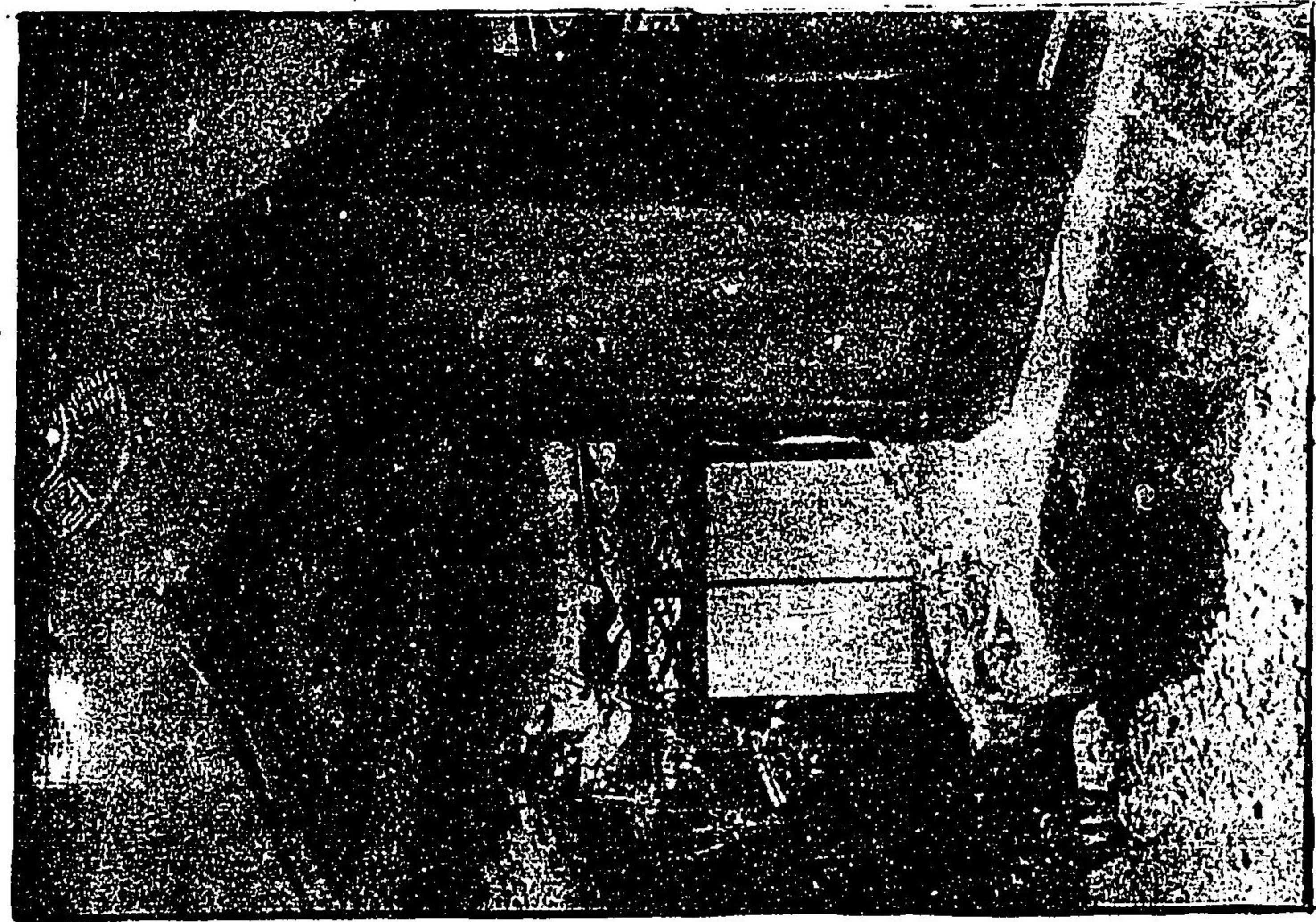
廣 運

維明治十有八年秋七月、聖駕西巡
臨我山口縣二十九日、憩於此更御龍
馬玉鑾、鑾々北白河二品親王陪之、應
司步兵大尉從之、扈者如雲、拜者如堵
越三十一日、艤舟於問屋口、遂至藝陽
偉觀洋々、懷之不能忘、伏惟
聖壽無疆、天休多祥

御召換所 德永勝藏謹誌

景第五十六 (陸坂遺蹟)

本園にありし石碑の後に明治十八年七月、皇上陛下山口へ御巡幸の際新
記載す 御名換所ありしが其後解除せり 碑文明瞭ならざるを以て前頁に



渡邊精米工場

防長立米
精白米白
麥製粉類
糖販賣商

商標 全渡

佐波郡右田村勝坂

兄弟商會本店

主任 渡邊勇次郎

電略(ワタ)又ハ(ワ)



(112)

七十五第景
(社 神 劔 社 郷 内 式)



本社は、右田村高井山の口にあり、素盞鳴命を祭
る、仲哀天皇筑紫御親征の時、創建せられし者と
云ふ●境内二千五百八十八坪あり◎保存金叁千圓

●氏子百三十戸

國幣小社玉祖神社

本社は周防國一宮なり、右田村大崎にあり、明治四年六月國幣小社に列せらる。玉祖命外一座を祭る、社傳に、祭神は神代にありて八咫瓊曲玉を作り給ひ、又天孫の降臨に從ひ、本國并近道諸洲を經略して功あり、後佐波郡大前の地に座して、遂に此地に於て神逝り給ひしかば、宇御祖に葬り奉れりといへり、景行天皇十二年、熊襲御征伐の時、御舟を此所に寄せられ、行宮を設けて暫く止りまして、賊臣平定を祈り給ふ、當時奉納せられし鏡劍は、永く本社に傳へて、神寶とせり、行宮の跡は宮城として今猶存す、また仲哀天皇神功皇后の筑紫を征せらるや、御舟を此濱に寄せ、神を祭りて軍の吉凶とせらる、御舟を寄せられたる處は、本社ノ西北にありて寄江と云ふ、後源義經平氏追討の時、吉包の大刀を奉りて必勝を祈り、尊氏も筑紫より東上の時、猛勇の太刀を奉りて成功を祈りしといふ、二劍今に傳はりて、社寶となれり、社寶は、前記の外、古劍一口、景行天皇の御奉納と云ふ、外に玉岩窟(本社より北四町)より掘り得たる古鏡、古鈴等數多あり。

境内坪數 二千二百六坪九合、内平地 千百七十六坪、木立 六百九十八坪三合、泉水 百四十四坪七合、築山 百四十六坪 堀 七十一坪五合ありて、老松巨樹鬱然として四面を圍繞せり。境外馬場 六百九十四坪七合、境外攝社、濱宮御神社及玉祖社の二社あり。

和名抄に本郡郷名に玉祖(多万乃於)とあるは此大崎の事なり。

今古の和歌

今川 貞世

大崎のうらふく風の朝なきに田島をわたるつるのもろこゑ

阿部 健臣

みすまるとの玉にならひてうるはしき花の色をも神や作りし

八十五第景
《社神祖玉社小幣國》



本社の沿革等は前頁にあり

● 華城村

本村役場は大字植松村八河内にあり明治三十三年十二月の新築にして坪數七十四坪あり明治四十四年二月十一日内務大臣より選獎金五百圓を下賜せられたる光榮ある村なり

村基本財産は建物土地公債の見積價格と現金との合計壹萬六千四百五十九圓余あり學校基本財産は同上壹萬五千三百五十四圓余なり

組合としては産業組合あり其會員數四百五十四にして出資口數六百三、出資總額六千三十圓なり各會は戸主會婦人會青年會修身會教育團軍人會あり

本村の神社佛寺は左の如し

仁井合八幡宮 (社有財産土地一反七畝十步現金貳千圓あり氏子三百戸なり)

植松八幡宮 (社有財産土地一反四畝二十五步現金千五十七圓あり氏子二百戸なり)

伊佐江八幡宮 (社有財産土地六反八畝廿七步あり氏子百十六戸なり)

光宗寺 (真宗にして信徒九百八十五戸あり)

妙玄寺 (同く真宗にして信徒五百三十二戸あり)

景 第 五 十 九

(華城村立華城尋常高等小學校)



みなり、又本校には農業補習科を設置す

本校は華城村仁井令字小徳田にあり明治廿五年六月の新築なり本年三月末日の調査に依れば就學児童男三百八十八人女三百四十八人不就學生は女一人の

登録商標

富士也男山

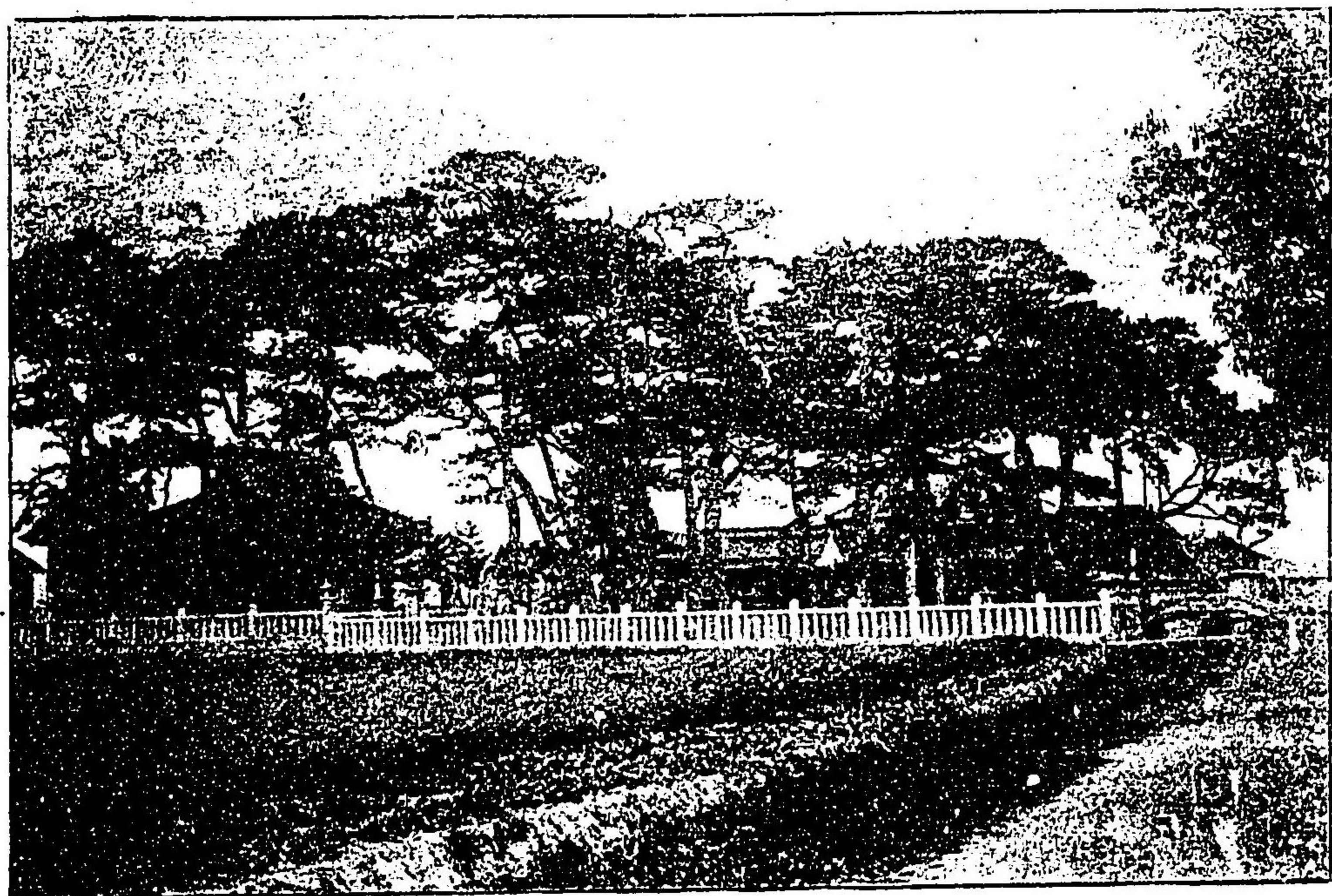
發賣元

中關本町

加藤酒場

(振替口座福岡六七四番)

十六第景
(社神磯社村)



磯崎神社は、中關村新前町にあり、享保十五年庚戌九月、舊領主田島開作着手に付開拓地鎮守として勸請。開作落成後は其地の氏神とす

タナ
ル
ゆ
は
織
製造業

佐波郡中關

今岡本商店

電話略號(ヤマヲ)

防府名産

西浦焼陶器竈元

佐波郡西浦村

吉田東一

防府案内 第三篇

第八章 當用小覽

矢野錦涯編

三田尻驛發車時刻表

種別	上										下						
	四四	二二四	二二八	六	四〇	四二	一六	三一八	四三	三二九	二〇一	一五	四一	二〇三	二〇七	五	二二二
列車番号	急行	混合	同	最急行	急行	同	同	急行	同	混合	急行	同	混合	同	最急行	混合	
發車時刻	午前二時十八分	同六時五十三分	同十時二分	同十一時三十八分	午後一時三十分	同五時十九分	同十時五分	同十一時五十九分	午前三時四十八分	同五時三十分	同六時七分	同八時三十七分	同十一時四十二分	午後十二時十五分	同三時二十分	同六時廿六分	同六時五十分
行先	京都	岡山	糸崎	新橋	馬場	京都	新橋		下關	同	同	同	同	同	同	同	同

防府案内 第三篇

(四)

三田尻港汽船出港時間

上り	午後 五時三十分	下り	午前 一時より
同	九時三十分	同	二時迄
			貳回

●三田尻港より各港に至る汽船運賃表(通行税加算)

港名	壹等	貳等	參等	港名	壹等	貳等	參等
大阪	六、七五〇	四、〇〇〇	二、四〇〇	宇品	二、四〇〇	一、六〇〇	一、〇〇〇
神戸	六、五〇〇	三、八五〇	二、二〇〇	宮島	二、三〇〇	一、四〇〇	八七〇
高松	五、八〇〇	三、八〇〇	二、三〇〇	岩國	二、一〇〇	一、三〇〇	七九〇
多度	五、四〇〇	三、六〇〇	二、三〇〇	久賀	一、九〇〇	一、〇〇〇	六六〇
津	四、九〇〇	三、二〇〇	一、八〇〇	柳井	一、七〇〇	七二〇	五二〇
尾道	三、八五〇	二、三〇〇	一、四〇〇	室津	一、三〇〇	七六〇	五二〇
系崎	三、九〇〇	二、一〇〇	一、三〇〇	室積	一、〇五〇	六三〇	四一〇
忠海	三、七〇〇	二、一〇〇	一、二〇〇	下松	七〇〇	四二〇	二六〇
竹原	三、六〇〇	二、一五〇	一、三〇〇	新川	一、〇五〇	六三〇	四一〇
阿賀	三、四〇〇	二、〇五〇	一、三〇〇	下關	一、〇〇〇	六二〇	四一〇
鍋	三、一〇〇	一、八五〇	一、一五〇	小倉	一、七五〇	一、一五〇	七六〇
音戸	三、〇〇〇	一、八〇〇	一、一〇〇	若松	一、〇五〇	一、一〇〇	七六〇
吳	二、六五〇	一、七〇〇	一、〇〇〇				七二〇

欠

MISSING

▲吳服商		▲雜貨商(和洋)	
○九中 塚德富吳服店	○七本 町岡田吳服店	一五中 市橋本久助	一五立 市河野商店
○三立 市竹中吳服店	○五中 市中光吳服店	▲牛乳商	一四新 町上原商店
○二今 市山內吳服店	○一今 市前田吳服店	一八上 岡村重國市五郎	
○一今 市老松小路藤本吳服店	○一今 市白石吳服店	▲魚類商	
○一今 市藤川吳服店	○一今 市森川吳服店	○六新 丁秋山商店	
▲荒物商		▲酒造業及酒類商	
○三新 町大村平兵衛	○二市 尻森田音熊	○六下 町原田酒場	○七中 塚大村酒場
▲砂糖商		一四上 岡村廣五酒場	一四片 河谷酒場
一八本 町神本商店	○三新 町安村支店	一六下 町松澤酒場	一六上 岡村廣五酒場
一四今 市山根藏吉		一五本 町宮本酒場	一五野 町木原酒場
▲材木商		○三追 戸守田酒場	○三新 戸守田酒場
一八新 橋馬場卯之助	○七三 田尻港木村作三	一六下 町同酒場	一六下 町同酒場
○三下 鳥居宮内龍之進	○四中 榎重村良吉	▲自轉車商	○五今 市渡邊漆器店
○三三 田尻港同支店		○六野 町山根自轉車店	○六野 町山根自轉車店

府縣內 第三卷

(11)

▲漆器商 ○三新 丁越智出張店 一五今 市渡邊商店	▲新聞雜誌販賣所 ○四中 塚原 藥舖 八中 市岡 書肆	▲書籍及文具具商 ○六中 市岡 書肆 ○六德 町山根 商店 ▲寫具師 ○三松 崎渡邊寫具館 九松 崎白石寫具館	▲盤元賣捌 ○六新 町井開 商店 ○三西 須賀富田 商店 三下 岡村木村 字吉	▲銃砲火藥類販賣 ○九德 町山根 自轉車店 ▲周旋業 一三驛 通立石喜三郎	▲肥料商 ○三堀 口池田 市藏 ○五今 市梶山 商店	▲製紙原料商 ▲石油商 ○三豆 田筋一丸石油商會 ○三西 須賀富田(繩)店 一五堀 口河崎 商店 ▲炭商(木炭) ○五三 田尻港木村作三	▲町竹内商店 一五堀 口中村 茂市 ○三新 町安村 支店 ○六新 橋福島 市藏	▲町竹内商店 一五堀 口中村 茂市 ○三新 町安村 支店 ○六新 橋福島 市藏
---------------------------------	-----------------------------------	--	--	--	----------------------------------	--	--	--



防府案内

(定價金五十錢)

明治四十四年十一月五日印刷
 明治四十四年十一月十三日發行

山口縣佐波郡防府町大字西佐波令
 九十七番地

著作 者 矢野忠直

(不許複製)

發行兼印刷者 西村孝太郎
 山口縣吉敷郡山口町大字道場門前
 千二百八十四番屋敷

發行所 山口石版印刷合資會社
 山口縣吉敷郡山口町大字道場門前
 千二百七十五番屋敷

謹啓

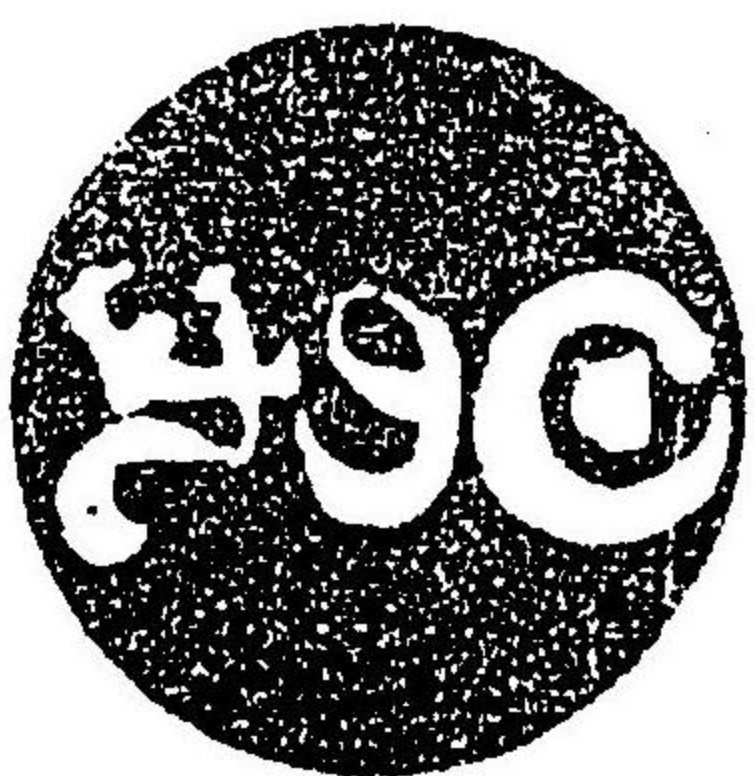
各官衙公署及學校の職員并に神職僧侶の各員
稻垣信義氏等各位より
本冊編綴上の材料を惠
與せられたるにより深
く其厚意を謝し茲より
一言を陳す

矢野錦涯敬白

●元音抜スハハ子車念記車駐御

葉

子



滋

養

屋門卸

葉種食養滋
類詰鐘酒洋

會志丸の回

市宮府防

94

750

前田景服店

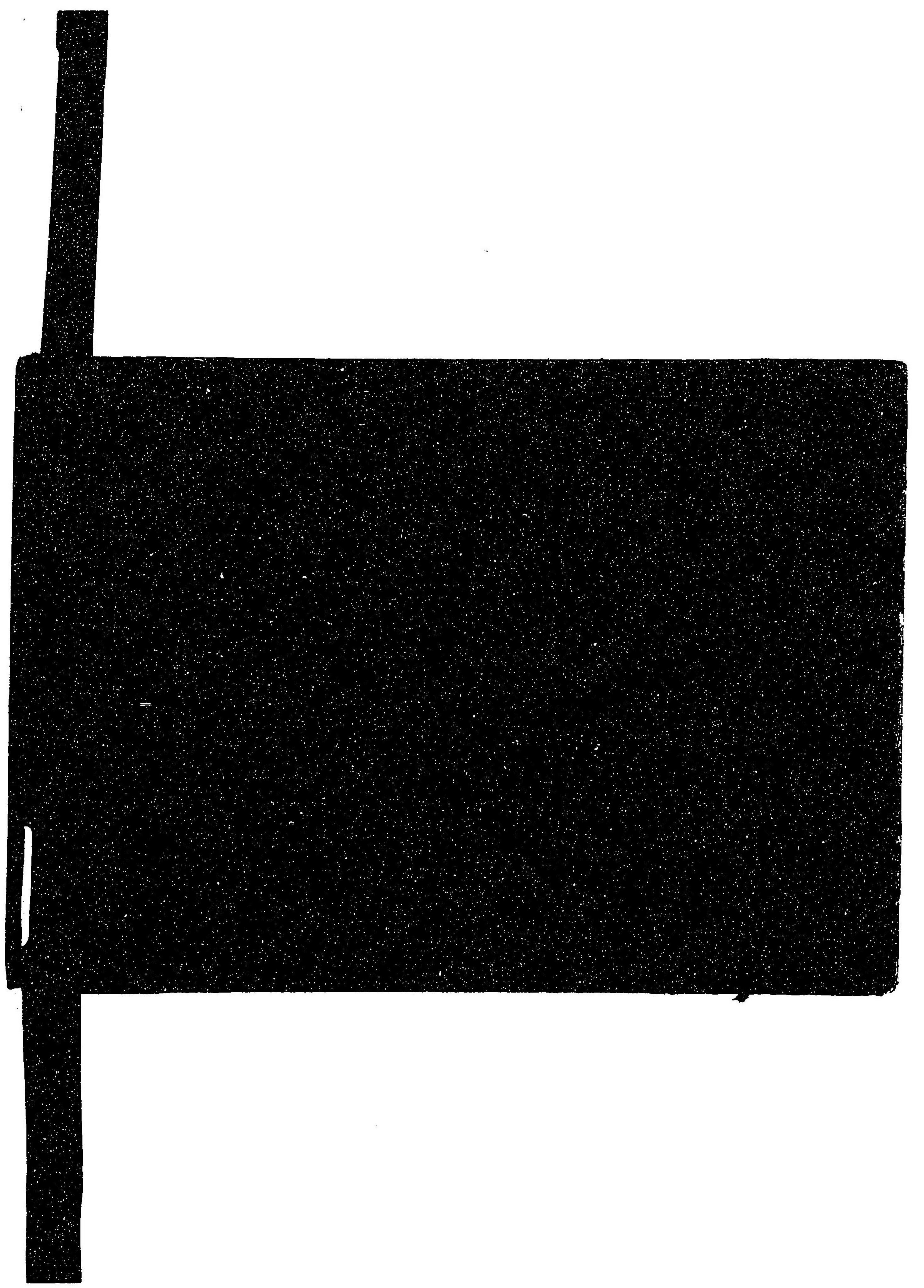


前田景服店

94

758

12-6-27



94

758

025993-000-6

94-758

防府案内

矢野 忠直 / 著

M44

ADC-3583



